

金古町裏遺跡 3

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2020

高崎市教育委員会
有限会社セゾンホーム
有限会社毛野考古学研究所

金古町裏遺跡 3

—宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2020

高崎市教育委員会
有限会社セゾンホーム
有限会社毛野考古学研究所

例　　言

1. 本書は、宅地造成道路工事に伴う金古町裏遺跡3の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業から本書作成に至る費用は、原因者（事業者）である有限会社セゾンホームに負担して頂いた。
3. 本遺跡は、群馬県高崎市金古町211番地1に所在している。
4. 本調査および整理作業は、事業者・高崎市・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導・監督のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
5. 発掘調査は、南田法正（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。遺構測量・空撮は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）がおこなった。G P S 標測による測量基準杭の設置は、有限会社スマヤ測量が実施した。
6. 発掘調査・整理作業は以下の期間で実施した。
【発掘調査】 令和元年8月19日～令和元年9月27日
【整理作業】 令和元年9月28日～令和2年3月31日
7. 本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡調査番号で775である。
8. 本書の執筆については、I章を矢島 浩（高崎市教育委員会）、それ以外の執筆と編集は南田が担当した。遺物観察表作成は志村 哲（有限会社毛野考古学研究所）、遺物写真撮影は井上 太（有限会社毛野考古学研究所）が分担した。
9. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。
【発掘調査】 天田眞由美・新井 實・五十嵐光子・石崎邦夫・上沢公一・織田秀雄・鬼形敦子・菊池 晴
　　桜井 豊・土佐庸好・正木裕子・三浦芳夫 　　有限会社明總 　　有限会社カネコハウス
【整理作業】 石原理久子・鬼形敦子・合田幸子・小谷貴世美・下條真美代・富澤友理・永島美和子
　　戸戸玲子・伴場りく・深谷道子・真下弘美・山下奈邦子
10. 発掘調査で出土した遺物及び図面・写真等の資料は、高崎市教育委員会文化財保護課で保管されている。
11. 発掘調査から報告書作成に至るまで、下記の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。
記して感謝の意を表したい。（敬称略・順不同）
　　有限会社セゾンホーム　　株式会社松本工業　　土俵地区自治会

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を1/60縮尺で表現することを基本として掲載した。各挿図にはスケールを付してある。また、図中の北方記号は座標北を示し、座標値は世界測地系に基づいている。
2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 1～1 / 4縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。
3. 遺物写真是遺物実測図とほぼ同縮尺である。
4. 遺物実測図のトーン凡例は各図に示した。
4. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。
SI：堅穴住居跡・堅穴建物跡　　SB：掘立柱建物跡　　SK：土坑　　SN：畠状遺構　　SD：溝跡
P：ピット
5. 遺構覆土および土器類の色調觀察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財團法人日本色彩研究所監修 2006）に従った。
6. 本文中や挿表中の数値表において、〈 〉は残存値を、（ ）は推定値を、それぞれ示す。
7. 本書で使用する火山灰指標テフラの略称は以下のとおりである。　　As-A: 浅間A軽石（西暦1783年）
　　As-B: 浅間B軽石（西暦1108年）　　Hr-FA: 棚名山二ツ岳渋川テフラ（Hr-S・6世紀初頭）
　　As-C: 浅間C軽石（3世紀後葉～末葉）　　Hr-FP: 棚名山二ツ岳伊香保テフラ（Hr-I・6世紀中葉）
8. 本書作成のために使用した参考・引用文献については、各章末に示した。

目 次

例 言
凡 例
目 次

I 調査に至る経緯	1
II 地理的・歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	5
1. 調査の方法	5
2. 調査の経過	5
IV 基本層序	8
V 検出された遺構と遺物	9
1. 遺跡の概要	9
2. 積穴住居跡	9
3. 土 坑	13
4. ピット	13
5. 挖立柱建物跡	13
6. 溝 跡	13
7. 扇状遺構	13
VI まとめ	36

写真図版
抄 錄
奥 付

挿 図 目 次

第1図 調査区設定図	1
第2図 道路位置図	2
第3図 周辺の道路	3
第4図 金古町裏道路3 遺構全体図	6
第5図 金古町裏道路3 遺構全体図(中近世以降)	7
第6図 基本層序	8
第7図 遺構図(1) S1-1	16
第8図 遺構図(2) S1-1 / S1-2	17
第9図 遺構図(3) S1-2 / S1-3 + S1-9	18
第10図 遺構図(4) S1-3 + S1-9	19
第11図 遺構図(5) S1-4 + S1-7	20
第12図 遺構図(6) S1-4 + S1-7	21
第13図 遺構図(7) S1-8 / S1-10 / S1-12	22
第14図 遺構図(8) S1-8 / S1-10 / S1-12	23
第15図 遺構図(9) SK-2 + 3 + 4 + 5 + 6	24
第16図 遺構図(10) ピット	25
第17図 遺構図(11) ピット	26
第18図 遺構図(12) ピット / SB-1 + 2	27
第19図 遺構図(13) SD-1 / SN-1 + 2	28
第20図 遺物図(1) S1-1 / S1-2 / S1-3	29
第21図 遺物図(2) S1-3 / S1-4	31
第22図 遺物図(3) S1-4 / S1-7 / S1-8 / S1-9	33
第23図 遺物図(4) ピット / 遺構外出土遺物	35
第24図 周辺の闊道跡	36

挿 表 目 次

第1表 積穴住居跡 一覧表	14
第2表 土 坑 一覧表	14
第3表 ピット 一覧表	15
第4表 挖立柱建物跡 一覧表	15
第5表 溝跡・扇状遺構 一覧表	15
第6表 S1-1 出土遺物観察表	30
第7表 S1-2 出土遺物観察表	30
第8表 S1-3 出土遺物観察表	30
第9表 S1-4 出土遺物観察表	32
第10表 S1-7 出土遺物観察表	34
第11表 S1-8 出土遺物観察表	34
第12表 S1-9 出土遺物観察表	34
第13表 ピット 出土遺物観察表	35
第14表 遺構外出土遺物観察表	35

写 真 図 版 目 次

P L . 1

- 金古町裏道路 3 遠景（北東から 右上方向に棒名山）
金古町裏道路 3 遠景（北から 保渡田古墳群方面を望む）
調査区全景（上が北）

P L . 2

- S I - 1 全景（南東から）
S I - 1 カマド全景（南から）
S I - 1 カマド掘り方遺物出土状況（南東から）
S I - 2 全景（南東から）
S I - 2 カマド全景（南西から）
S I - 2 覆土中硬化解・北壁体頃跡（北東から）
S I - 3・9 全景（北東から）
S I - 3・9 全景（南東から）

P L . 3

- S I - 3 南側遺物出土状況（南西から）
S I - 3 北側遺物出土状況（南東から）
S I - 4・7 全景（西から）
S I - 4・7 全景（南東から）
S I - 7 不明遺構検出状況（西から）
S I - 7 土坑 1 全景（南から）
S I - 4 鉄製品出土状況近景（南から）
S I - 4 西側遺物出土状況（北西から）

P L . 4

- S I - 4 南東側遺物出土状況（北から）
S I - 8 全景（東から）
S I - 8 カマド状遺構全景（東から）
S I - 8 遺物出土状況（東から）
S I - 10 全景（南西から）
S I - 12 掘り方全景（南東から）
S B - 1・2 を含む西側ピット群（北から）
S K - 2・3 全景（南東から）

P L . 5

- S K - 4 全景（南西から）
S K - 5 燐土・灰検出状況（東から）
S D - 1 全景（南西から）
S D - 1 土層断面（南西から）
S N - 1 検出状況（北西から）
S N - 2 検出状況（北東から）
S N - 2 周辺のV型上面 As - C 近景
基本層序C トレンチ（南西から）

P L . 6

- 出土遺物（1）

P L . 7

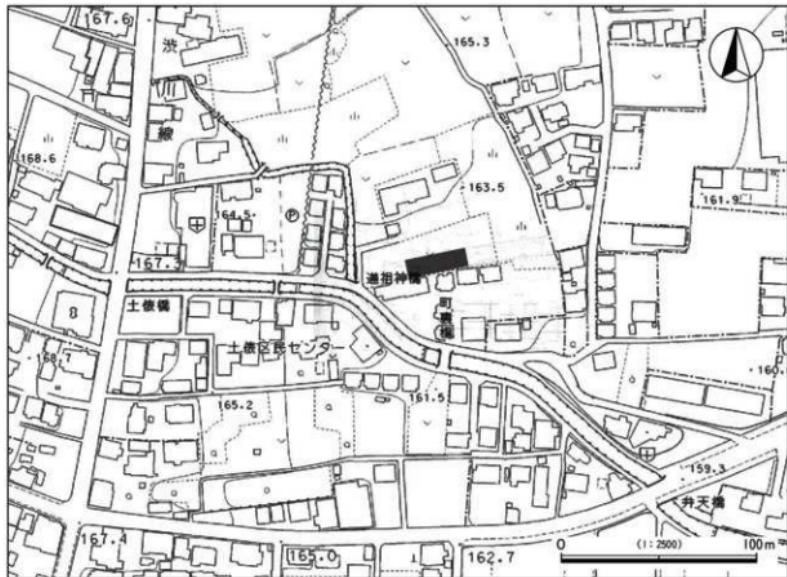
- 出土遺物（2）

I 調査に至る経緯

令和元年6月、開発事業者および施工責任者である有限会社セゾンホームから、高崎市金古町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が、高崎市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である群馬地区奈良平安No.28遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年6月4日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が開発事業者から提出され、同年6月24日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の堅穴建物跡・土坑・ピット群を確認した。この結果をもとに開発事業者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。遺跡名は調査次数を勘案して「金古町裏遺跡3」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に準じ、令和元年7月2日に有限会社セゾンホームと民間調査機関である有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結した。さらに同日、有限会社セゾンホーム・有限会社毛野考古学研究所・市教委との間で三者協定を締結した。調査の実施にあたっては、市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区設定図（高崎市都市計画基本図1/2500を改変）

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

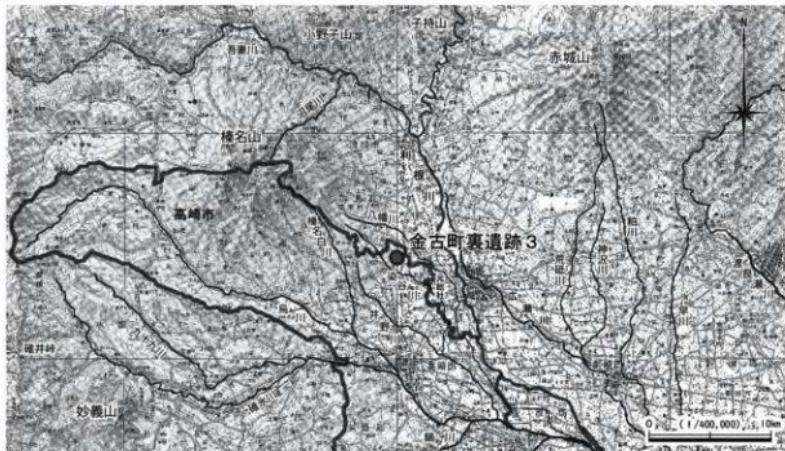
本遺跡は、高崎市中央部の金古町（旧群馬町金古）に所在し、榛名山東麓に広がる相馬ヶ原扇状地上の標高160m付近、牛池川の左岸台地上に立地する。相馬ヶ原扇状地は、浅間板鼻黄色軽石（As-YP、1.5～1.6万年前）と浅間白糸軽石（As-Sr、2.0万年前）との間に発生した榛名火山の山体（相馬山溶岩ドーム）崩壊による陣場岩屑なだれに起因して形成された。この岩屑なだれは角閃石安山岩や同質の火山角礫岩によって構成され、最大層厚40mを測る。本堆積物によって、利根川の流路が赤城山西南麓、現広瀬川の辺りに固定されたと考えられている。広大な扇状地上は、牛池川・染谷川・八幡川・井野川など多数の中小河川が東流あるいは南東流し、低地帯と微高地が複雑に入り組んだ地形を作り出している。

扇状地の上部は、これらの河川堆積物と推測される新期榛名火山扇状地堆積物で覆われ、扇端部付近から利根川にかけての範囲には、粘質土・シルト・細砂の互層からなる総社砂層が2～5mの厚さで堆積している。総社砂層の形成時期は、浅間板鼻黄色軽石（As-YP、1.5～1.6万年前）や浅間総社軽石（As-SJ、1.1万年前頃）よりも新しいことが判明している。

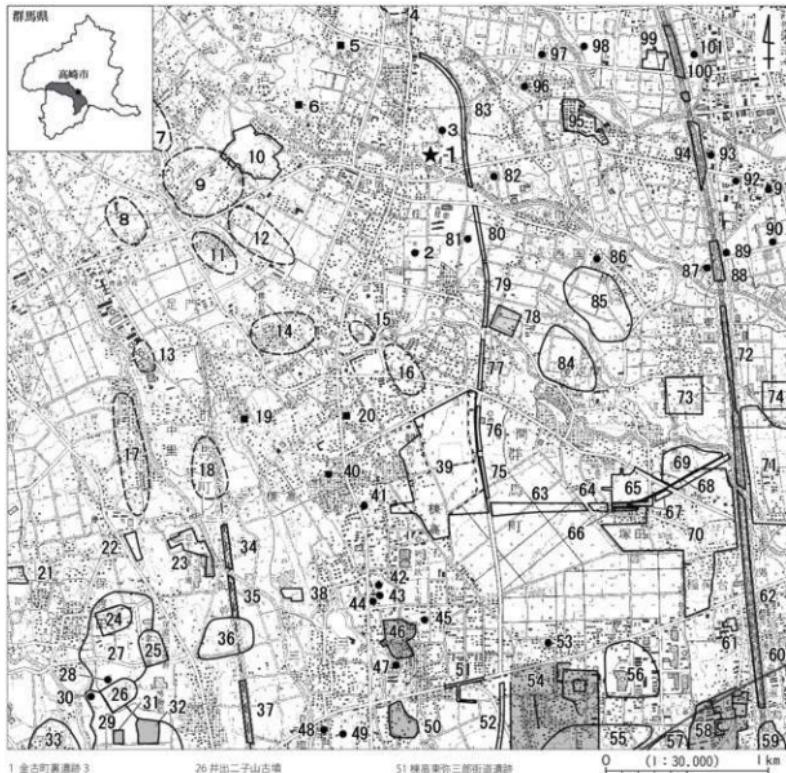
本遺跡では、浅間C軽石（As-C、3世紀後半～末葉頃）の下位に20～50cmの厚さの黒褐色～褐色土（いわゆる黒ボク土）が堆積しており、基盤層は黄褐色・明褐色～褐灰色のシルト質土となっている。

2. 歴史的環境

金古町裏遺跡3は、上野国分僧寺の北東2.1km、北谷遺跡の北北西1kmに位置し、周辺には多数の遺跡が分布する。周辺の調査例では、本遺跡一帯の台地上においては、古代集落やHr-FAによって埋没した古墳時代の墓跡が広域で確認されており、河川沿いの狭小な低地帯では小規模なHr-FA下水田跡が分布する。



第2図 遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20万分の1図を改変）



1 金古町裏遺跡	26 井出子山古墳	51 棚原高瀬川三郎街道遺跡
2 金古町裏古墳	27 保渡田石塚群	52 菅谷石塚遺跡・菅谷石塚II遺跡
3 金古北二十三町遺跡 (群馬町)	28 保渡田古墳群	53 皆治万葉古墳遺跡
4 内林・樺谷古墳群	29 井出子山古墳群	54 関山古墳
5 爱宕山古墳	30 井出子山古墳群	55 菅谷遺跡
6 離防古墳	31 花冠寺遺跡	56 君木村東古墳
7 王塚古墳群	32 黒野船跡	57 正觀寺遺跡群
8 金井沢古墳群	33 通瀬遺跡群	58 金城城址
9 康古寺遺跡	34 保渡田古墳	59 中里遺跡
10 金古安良田遺跡	35 三ッ寺古墳遺跡	60 雅江東山道駅跡 (国府ルート)
11 寺屋敷古墳群	36 井出子山古墳群	61 鶴見山・高尾尾遺跡
12 佐来古墳群	37 三ッ寺古墳遺跡	62 烏山古墳
13 足門村西古墳群	38 墓上古墳跡	63 桂坂辻・久保原遺跡
14 鶴巻古墳群	39 横高瀬古墳群	64 引領六石古墳跡
15 東久保古墳群	40 横高平石古墳跡	65 引領松葉古墳跡
16 通瀬保塚古墳群	41 横高西竹坂古墳跡	66 保塚伊印傳古墳跡
17 錦張古墳群	42 横高南八幡街遺跡 3	67 保塚中原古墳跡
18 貴沙門古墳群	43 横高南八幡街遺跡 2	68 元氣社西山古墳跡
19 須磨様古墳	44 横高南八幡街遺跡	69 元氣社西山古墳跡
20 駒谷寺古墳	45 横高東古墳跡	70 国府市南部遺跡群
21 保渡田池内寺前遺跡	46 横高辻跡	71 元氣社菅海遺跡群
22 保渡田池内寺前遺跡	47 横高西三郎郡街道遺跡	72 上野郡分信寺跡
23 保渡田池内寺前遺跡	48 三ヶ寺村前遺跡下遺跡	73 上野郡分信寺跡
24 保渡田池内寺前遺跡	49 中原十王堂遺跡	74 上野郡分信寺跡
25 保渡田八幡塚古墳	50 中原館跡	75 西三社先遣跡
26 保渡田八幡塚古墳		
		0 (1 : 30,000)
		1 km
		76 小池遺跡
		77 駒防西古墳跡
		78 北谷遺跡
		79 冷水村東遺跡
		80 西園分新田遺跡
		81 冷水牛池古墳跡
		82 青梨子山古墳遺跡
		83 金古北二十三町遺跡 (群馬文)
		84 後定間田遺跡群
		85 西園分遺跡群
		86 西園分ハツツ原遺跡
		87 国分境川遺跡
		88 国分境遺跡
		89 国分境川遺跡
		90 国分境川遺跡
		91・92 北原村東遺跡
		93 北原北下丁遺跡
		94 北原遺跡
		95 鹿谷野・熊谷野・熊谷谷 III 遺跡
		96 桶原遺跡
		97 松ノ木塚跡
		98 中島遺跡
		99 下東西清水上遺跡
		100・101 下東西遺跡

第3図 周辺の遺跡 (国土地理院発行『前橋』『下室田』25,000分の1図を改変)

繩文時代では、上野国分僧寺・尼寺中間地域（72、以下中間地域）と隣接する元総社遺跡群には、前期後葉と中期後葉の拠点的集落が存在する。両時期の占地重複については生態学的領域の面で注意する必要がある。鳥羽遺跡（62）では晩期の住居跡が1軒確認されており、染谷川左岸の元総社蒼海遺跡群（48地点）（71）でも晩期の土器が出土している。

弥生時代では、西三社免遺跡（75）や小池遺跡（76）などで前中期の遺物が出土している。後期になると、国史跡日高遺跡が環濠集落で、中間地域も集落域となっている。

古墳時代前期になると、中間地域一帯の染谷川两岸で集落が発展し、後期にかけて台地奥部へと拡大してゆく。棟高遺跡群（39）では低墳丘墓が10基以上存在する墓域であることが判明している。棟高南寝暮窪遺跡3（棟高遺跡群・39）では方形周溝墓が確認されている。西国分新田遺跡（80）ではAs-Cに埋没した埴跡が検出されている。5世紀後半になると、北谷遺跡（78）や三ツ寺I遺跡といった豪族居館と、井出二子山古墳（26）・保渡田八幡塚古墳（25）・保渡田兼師塚古墳（24）が構築され、巨大な地域勢力が現れてくる。これらの周辺には、後疋間遺跡群（84）や西国分遺跡群（85）諫訪西遺跡（77）・冷水村東遺跡（79）などにおいて当該期の住居跡が多数確認されている。

6～7世紀代には一気に住居軒数が増加し、これと呼応して染谷川・唐沢川流域に群集墳が構築されるようになる。この時期のHr-FA下畠跡は、金古町裏遺跡（2）・金古北十三町遺跡（83）・西国分新田遺跡など、広範囲で検出されており、榛名山麓でも特に染谷川流域では大規模な農業開発が行われていたようである。井出地区遺跡群（36）は古墳時代の水田跡が広い範囲で検出されている。

古代になると、前橋市元総社地域に上野国府が置かれ、上野国分寺・国分尼寺も設立される。これらの周辺では、8～11世紀代まで集落形成が盛んである。ただし、棟高遺跡群などでは前代よりも集落が衰退するという。本遺跡近隣の金古町裏遺跡や金古北十三町遺跡では、古墳時代の埴跡と非常に散漫な古代の住居跡分布という現象が認められる。

中世には、各地に城跡や屋敷跡が構築されるようになり、棟高館址（46）や菅谷館址（54）、中泉館址（50）などが分布する。当地は箕輪城の長尾氏の影響下にあったようである。牛池川と染谷川を下れば、長尾氏の居城である蒼海城に至る。金古北十三町遺跡では土橋を伴う空堀が検出されている。

近世初期には、北国街道整備に伴って金古宿が置かれた。字「町裏」は、宿場の東側一帯、南北1.5kmに及ぶ範囲に与えられた地名である。

引用・参考文献

- 早田 勉 1990 「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編Ⅰ』
日沖剛史 2015 「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』1号 地域考古学研究会
吉田英嗣 2004 「浅間火山を起源とする泥流堆積物とその間東平野北西部の地形発達に与えた影響」『地理学評論』77-8
吉田英嗣・須貝俊彦・坂口一 2005 「利根川・吾妻川合流点付近の河川地形発達に及ぼす前橋泥流イベントの影響」『地理学評論』78-10
下司信夫 2013 詳細火山データ集：榛名火山・日本の火山・産総研地質調査総合センター
http://gbank.gsi.jp/volcano/Act_Vol/haruna/index.html
飯森康広 1998 『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
大塚昌彦 2019 『棟高西弥三郎街道路跡』高崎市教育委員会 株式会社調研
大塚昌彦 2019 『冷水牛池遺跡』高崎市教育委員会 株式会社調研
神澤久幸・田辺芳昭ほか 2014 『下里見谷戸遺跡3・棟高閑門遺跡・金古町裏遺跡・小八木宅地派遺跡2・飯玉遺跡3・南大類村南遺跡2』高崎市教育委員会
小林一弘 2019 『棟高西新堀遺跡』高崎市教育委員会 株式会社シンジテクニカルコンサル
田辺芳昭・山本ジェームズ 2012 『金古安良田遺跡』高崎市教育委員会
矢島浩・青木利文ほか 2019 『棟高南八幡街道路跡3』高崎市教育委員会 山下工業株式会社

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

道路工事面積約390m²（約65m×6m）のうち、試掘調査の結果、調査面積は122m²となった。

表土掘削は0.25m²バックホーを用い、基本的には表土およびAs-A・As-B混土ならびに基本層序IV層(Hr-FAおよびAs-C混土)を除去し、基本層序V層(As-C混黒色土)上面および同VI層(黒褐色土)上面を遺構確認面とした。その後、ジョレンによって遺構精査作業を実施し、遺構確認状況をドローンによって空撮した。各遺構については、移植ゴテ・スコップ等によって覆土を人力掘削した。

測量基準となる公共座標は世界測地系を用い、現地にて基準杭のG P S測量を実施した。平面測量は自動追尾トータルステーションを用い、一部は空測で対応した。遺構断面測量は手実測した。遺構写真は35mm白黒フィルム・カラーリバーサルフィルム、2400万画素のA P S-Cサイズセンサーデジタルカメラ（ニコンD 5500）で撮影した。調査終了時には遺跡全景・遠景写真をドローンによって空撮した。

整理作業は、遺物を水洗機で洗浄後に手洗いし、インクジェット機器にて注記した。遺物実測は正射投影法にて手実測し、遺物・遺構とともにAdobe IllustratorCS2・CS6にてデジタルトレースした。遺物写真はフルサイズデジタルカメラ（ニコンD 850）にて撮影した。編集・版組はAdobe IndesignCS2にておこなった。

2. 調査の経過

発掘調査は令和元年8月1日から同年9月10日まで実施した。整理作業は、同年10月1日から令和2年3月25日まで実施した。発掘調査の経過概要を以下に記す。

8月 7日：開発事業者有限会社セゾンホームにて打ち合わせ。現地下見。翌8日に現地打ち合わせ。

8月 18日：重機搬入。 8月 19日：重機による表土掘削開始。

8月 20日：重機表土掘削終了。土俵川沿いにカラーコーン設置。駐車場用土木シート設置。

8月 21日：作業員を投入し、環境整備・安全対策。遺構確認精査作業後、遺構調査開始。仮設トイレ搬入。

雨天のため、15：30で作業終了。

8月 22日：雨天中止。 8月 23日：SI-2～4、SK-1～6の調査。

8月 26・27日：SI-2～4、SK-2～6の調査。 8月 28日：雨天中止。

8月 29日：SI-1～4、SK-5・6の調査。

8月 30日：SI-1・2調査。午後雨天中止。

9月 2日：SI-1～3・4～7、SK-5の調査。

9月 3～6日：SI-3・4～7、西側ピット群の調査。 9月 9日：台風通過のため中止。

9月 10日：SI-1～4・7、西側ピット群調査。 9月 11日：継続調査。午後雨天中止。

9月 12・13日：SI-1・3・5、西側ピット群の調査。

9月 17～20日：SI-4・5・7・8・11、SI-1・2・3・5・9掘り方、西側ピット群の調査。

9月 24日：SI-1・4～8・11掘り方、SI-5・10の調査。器材一部撤収。

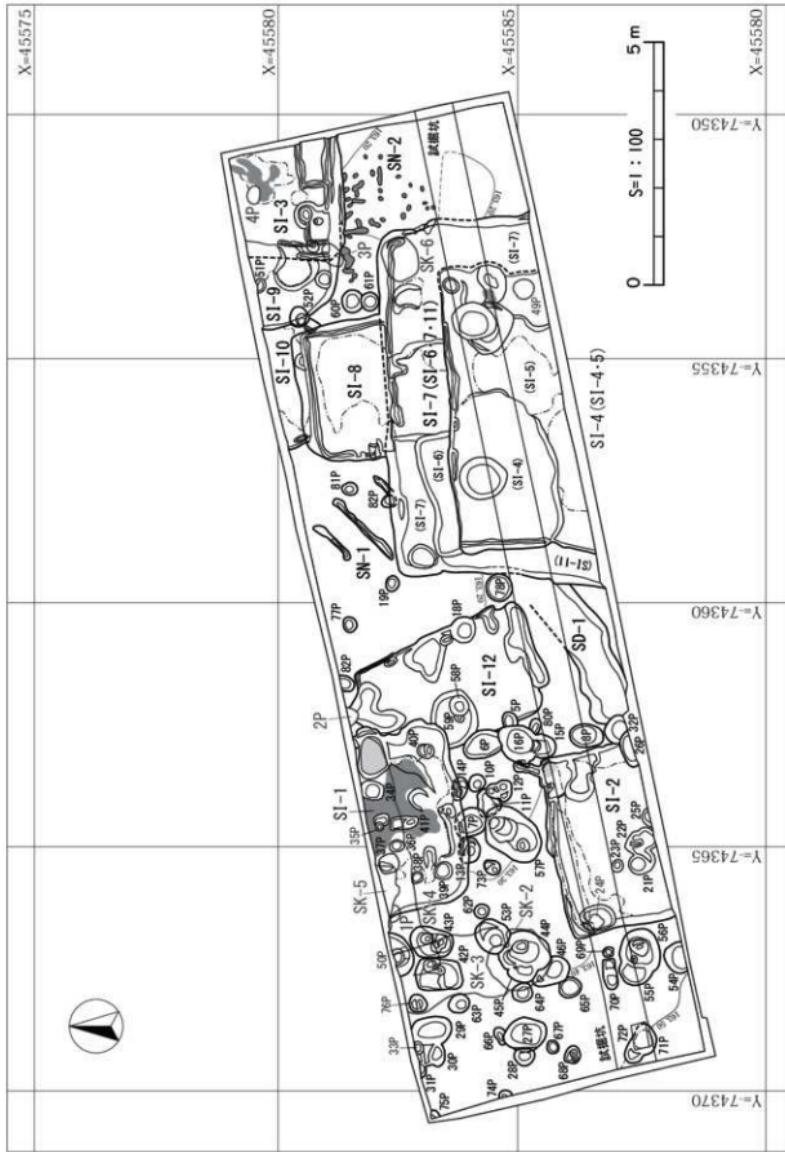
9月 25日：SI-4～11掘り方、SD-1、ピット群の調査。各遺構測量。器材一部撤収。

9月 26日：SI-4～11掘り方、SD-1、SN-1・2、ピット群の調査。各遺構測量。器材一部撤収。

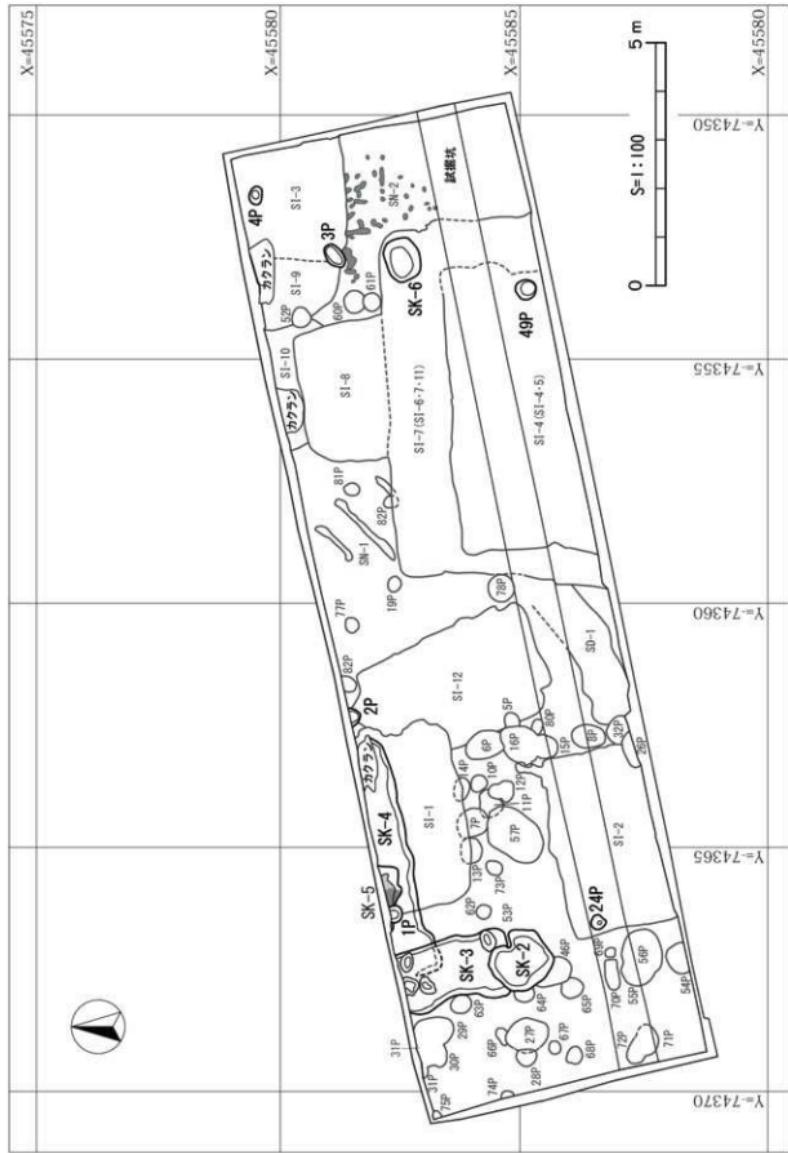
9月 27日：空撮。遺構調査・平面測量・断面測量終了。器材・駐車場用シート・仮設トイレ撤収。

高崎市教育委員会による終了検査。

10月 1日：開発事業者による埋戻し工事に合わせ、安全対策用の杭・ロープ・バリケード等撤収。



第4図 金古町裏遺跡3 造構全体図



第5図 金古町裏遺跡3 遺構全体図（中世以降）

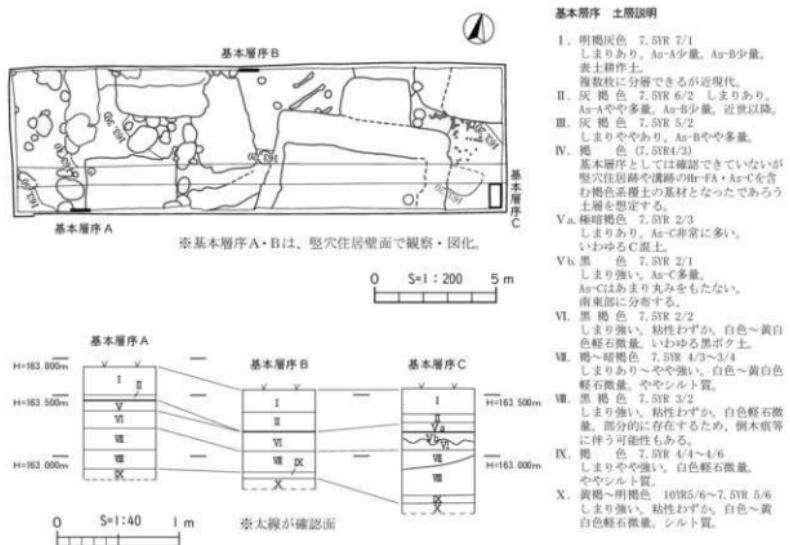
IV 基本層序

本遺跡一帯は、棟名山南西麓に広がる相馬ヶ原扇状地の扇央部に該当する。調査区は牛池川と土俵川の合流地点にある微高地で、調査区内は南東側が最も高い。遺跡の直接的な基盤層（地山）としては、おそらくは牛池川などの中小河川によって運ばれてきた、強く縮まってわずかに粘性のあるシルト質土（IX～X層）が広範に堆積しているものと考えられる。X層は地点ごとに色調の変化があり、明褐色～黄褐色を呈するため、一見するとローム層のような印象を受ける箇所がある。この基盤層の上部には、褐～暗褐色のVII層と黒褐色のVI層が厚く堆積するが、VI層は部分的に分布するため、地点ごとに層厚がかなり異なる。VI層はAs-C下黒色土、いわゆる黒ボク土である。

V層は、As-C（浅間C軽石・3世紀後半～末葉）を多量に含む黒色土、いわゆるC混土である。調査区の南側のみ残存し、Vb層は東端側で確認した。As-C軽石は直径5mm前後で、摩耗はあまり顕著ではない。調査区中央で検出された扇状構造のSN-1では、歎間痕跡内にAs-Cが多量に含まれている。

IV層は、遺構覆土に顕著な、Hr-FA黄褐色細粒火山灰ブロック・軽石を含む褐色土の存在から想定したもので、基本層序として視認できとはいえない。特にSD-1の褐色覆土にはHr-FAの黄褐色ブロックが多量に含まれており、IV層の存在を強く示唆する。SI-4の竪穴覆土中層には、ラミナ状の細粒細砂が混入しており、竪穴埋没過程（8世紀後半以降）での河川氾濫を推測させる。

I層はAs-A（浅間A軽石・1783年）を含む現代の表土・耕作土で、調査区全体を厚く覆う。II層は近世以降のAs-A混土と推測される。III層はAs-B（浅間B軽石・1108年）を含む砂質土で、調査区の北壁でわずかに確認できる。



第6図 基本層序

V 検出された遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡は、8～9世紀を中心とする集落遺跡である。古代の遺構として竪穴住居跡9軒、掘立柱建物跡2棟、ピット70基（うち20基が掘立柱建物）、溝跡1条、畠状遺構2カ所のほか、中近世以降の土坑5基、ピット6基を確認した。

調査当初、住居跡は12軒を想定していたが、SI-5・6・7・11についてはSI-4・7内部の段差と判断した。SI-12は掘り方のみを検出している。SI-1・3の2軒には上屋焼失の可能性がある。SI-3では間仕切り溝と一体化した出入り口施設を確認した。明瞭なカマドを検出できたのはSI-1・2の2軒である。SI-4では東壁の北寄りに、浅い掘り込みと燒土散布を検出したが、カマドとは判断できなかった。SI-7東壁にはHr-FAとC混黒色土のブロックを用いてアーチ状に貼り付けた状況を看取した。SI-8では西壁に地山ブロックを使ってドーム状に形作って壁面に貼付した遺構を検出したが、燒土・灰を全く伴わなかったため、カマド状遺構として扱った。また、SI-7は一辺7mを超す大型住居である。

70基の古代のピットは西側に集中し、このうち掘立柱建物跡は2棟（SB-1・2）と推定した。同一地点での建て替えで、SI-1・2よりも新しい。溝跡が1条（SD-1）あり、覆土にはHr-FAブロックが多量に含まれ、住居群より古い。同一軸方向で、畠跡の歛間と推測されるSN-1を検出した。SN-2は、Hr-FAブロックを主体とする小さく浅い窪みの平面的分布を示したものである。木の根の可能性もあったが、一部には東西・南北方向の細長い範囲として捉えられたため、耕作痕の可能性を考慮して遺構設定した。

中近世以降の詳細時期不明な土坑5基は、形状が様々で、具体的な用途も不明である。ただしSK-5については、底面～壁面が顕著に被熱赤化しており、何らかの焼成土坑と考えられる。

遺構外から、繩文土器として中期後葉の深鉢片1点が出土している。

2. 竪穴住居跡

SI-1（遺構：第7・8図、第1表、PL2/遺物：第20図、第6表、PL6）

時期：古代。9世紀後半。**規模**：東西3.80m、南北1.92m、深さ19～31cm。**主軸方位**：N-78°-W。**形態**：隅丸長方形と推測する。**検出状況**：竪穴北半分は調査区外にある。基本層序VI層上面で検出した。**重複関係**：竪穴上部はSK-3で削平され、竪穴西端部はSK-5によって破壊される。本竪穴はSI-12の一部を破壊する。竪穴埋没後に34P～41PおよびSB-1・2が掘り込まれる。**覆土堆積状況**：基本層序IV～VI層の褐～暗褐色土を基材とし、硬化ブロックが混入する。中央部下層には燒土粒が多数含まれ、上屋焼失の可能性がある。全体として、下部は埋め戻し、上部は自然堆積と推定する。**床面**：壁際以外は全体に硬化し、特に中央部は被熱によって硬化・赤化が顕著である。硬化層は部分的に上下（新旧）2層ある。壁際は軟弱で浅く掘り込まれるが、いわゆる周溝ではない。**掘り方**：壁際が溝状に深く掘り込まれる。**カマド**：東壁中央に付設される。袖は地山掘り廻しの基部のみを確認した。焚口～燃焼部全体がやや深く掘り込まれている。**土坑・貯蔵穴**：竪穴南東隅は床面中央から15cmほど低く、旧硬化面時に貯蔵穴が存在した可能性がある。**ピット**：P1は出入り口に関わる施設と推測する。**遺物出土状況**：小片主体で、遺物量は少ない。南壁付近の覆土中位から2の須恵器壺、カマド掘り方から3の須恵器小型壺が、4の砥石は床面から出土した。**遺物**：砥石（4）は両端部に敲打痕がある。1の土師器壺はSI-2出土遺物と接合している。

SI-2 (遺構: 第8・9図、第1表、PL 2 / 遺物: 第20図、第7表、PL 6)

時期: 古代。8世紀末～9世紀初頭頃か。**規模:** 東西3.62m、南北<2.05>m、深さ35cm。**主軸方位:** N-12°-E。**形態:** 方形と推測する。**検出状況:** 穴南側は調査区外にある。基本層序V～VI層上面で検出した。**重複関係:** 21P～26P、32Pに切られ、SD-1を破壊する。**覆土堆積状況:** 基本層序IV～VI層の褐～黒褐色土を基材とし、中央部は凸状に堆積するため、埋め戻しの可能性がある。中央部中層と壁際の覆土中位は硬く締まり、踏みしめ行為を想定する。**床面:** 全体に硬化した均質な黒褐色土で、おそらくは地床と推定する。地山の黒褐色土の硬化深度が深い。カマド前は黄褐色土による盛土状の高まりを形成する。**掘り方:** カマド前が窪む。カマド: 穴北東隅部に設置される。左袖はわずかに地山を掘り残した基部の外側に褐色～暗褐色土を貼り付けて構築している。覆土には天井・袖崩落土などの明瞭な焼土を検出できず、浅く掘り込まれた燃焼部奥壁側に薄い灰を検出したのみである。煙道は穴外北東方向へ短く延びる。**土坑・貯蔵穴:** 穴西北隅の土坑1は、貯蔵穴と推定する。24P(中近世以降)によって一部を破壊されている。**ピット:** なし。**遺物出土状況:** 小片主体で、遺物量は非常に少ない。須恵器蓋(1)が土坑1底面から出土した。**遺物:** 須恵器壺破片(4)は、胎土・焼成の特徴から東海産と推定される。**所見:** 北壁には、わずかなテラス部分が認められた。

SI-3 (遺構: 第9・10図、第1表、PL 2・3 / 遺物: 第20・21図、第8表、PL 6)

時期: 古代。9世紀後半。**規模:** 東西<2.18>m、南北<2.22>m、深さ41～54cm。**主軸方位:** N-2°-E。**形態:** 半丸方形と推測する。**検出状況:** 穴北東部は調査区外にある。基本層序V～VI層上面で検出した。**重複関係:** 軸方向がほぼ同じで西隣のSI-9と重複する。重複箇所の覆土は非常に近似するが、穴壁のズレや周溝を基に重複と判断した。本遺構が新しい。**覆土堆積状況:** 褐～暗褐色土を主体とする。東壁断面ではやや複雑な堆積状況を呈し、人為的理め戻しを想定する。**床面:** 中央部は硬化し、被熱によつて赤化している。覆土下層にも焼土が散布するため、上屋焼失の可能性が高い。中央部の硬化面は上下2層以上あり、その間には焼土粒を含む薄い灰層を挟んでいる。また、南壁付近には周溝と平行・直行する間仕切り状の細い溝が設けられ、東側にはやや軟弱な床面の方形状区画を、西側には方形状の雀みを形成し、両者の間の高まりは顯著に硬化する。**掘り方:** 全体に浅く掘り込まれ、壁際付近がやや深い。SI-9との間に明瞭な段差などは確認できなかった。**カマド:** 調査区外の穴北東側に付設されているものと推測する。**土坑・貯蔵穴:** 不明。**ピット・溝:** 穴南壁には、西側間仕切り溝の屈曲部にP2があり、その南にP1が穿たれている。東隣の高まり部が硬化することから、いずれも出入り口に伴うピットと推測する。**遺物出土状況:** 下層中から、須恵器壺や土師器壺破片などがやまとまって出土した。**遺物:** 須恵器壺底部(8)には、棒状工具による3条の線刻がある。また、土師器壺(1)はSI-2中層出土遺物と接合した。また、SI-4(11)の須恵器壺破片が出土している。**所見:** SI-9とは別住居としたが、床面には明瞭な段差もなく、覆土も近似するため、1軒の穴住居である可能性を完全には払拭できない。

SI-4 (遺構: 第11・12図、第1表、PL 3・4 / 遺物: 第21・22図、第9表、PL 6・7)

時期: 古代。8世紀後半。**規模:** 東西長軸5.64m、南北短軸<2.73>m、深さ32～53cm。**主軸方位:** N-85°-E。**形態:** 西壁が張り出す半丸方形と推測する。SI-4とSI-7の西壁の広がった形状が相同状を呈している。**検出状況:** 穴の南半部は調査区外にある。基本層序V～VI層上面で確認した。中央部を試掘トレンチが横断する。**重複関係:** 遺構確認時は1軒と判断していたが、調査の進捗に伴って床面上での段

差が各所に現れたため、数軒の重複と考えるに至った。しかし整理作業段階での再検討の結果、大型住居S I-7 内部にSI-4 が入れ子状に重複するものと推定した。**覆土堆積状況**：褐色～暗褐色～黒褐色土を主体とする。**床面**：中央部はやや高まりとなって硬化する。西側は広い範囲で低く、やや軟弱である。この部分を当初は(SI-4)とし、ほかの部分を(SI-5)と仮称していた。**掘り方**：中央部がやや深く掘り込まれる。**カマド**：調査区外であろう。北東隅に近い東壁に、浅い掘り込みと焼土散布範囲がある。当該期住居の一般的なカマド位置ではなく、この上部にあたる竪穴覆土中にも明瞭な焼土は検出していない。カマド痕跡と積極的には判断できない。**土坑・貯蔵穴**：不明。**ピット・溝**：SI-7 の主柱穴であるP1・P2について、SI-4では閉塞されている状況が確認できなかった。よって、SI-4にも伴う可能性がある。少なくとも、P1は一度掘り直されている。P3は深さ5cmほどの小ピットである。壁際には部分的に周溝が巡る。**遺物出土状況**：全体量は多くはない。いくつか良好な資料があり、覆土中層～床面において出土している。**遺物**：14の二股状鉄製品は、身部の断面形は正方形を呈し、内面の稜は刃部とは考えにくいため刺突具のヤスとした。須恵器甕(11)は多数の破片が分散して出土しており、SI-3にも混入している。**所見**：SI-4・7の主軸と平面形は相同であり、主柱穴配置と覆土の状況を優先させれば、SI-4もSI-7の段差に含まれる可能性がある。この場合、周溝は段差部分の保護養生材を埋設するための掘り方と推測される。

SI-7 (遺構：第11・12図、第1表、PL3・4 / 遺物：第22図、第10表、PL7)

時期：古代。8世紀後半。**規模**：東西長軸7.38m、南北短軸〈4.06m、深さ26～36cm。**主軸方位**：N-87°-E。**形態**：西壁が張り出す隅丸方形と推測する。SI-7とSI-4の西壁の広がった形状が相同状を呈している。西壁の北側が内側へ突出しており、これは土坑1の構築にかかわるものであろう。**検出状況**：竪穴の南半部は調査区外にある。基本層序V～VI層上面で確認した。中央部を試掘トレンドが横断する。**重複関係**：SI-4の項で記載した通り、SI-4が入れ子状に新しく重複しているものと考えた。ただし、SI-4・7で1軒の大型住居の可能性もある。**覆土堆積状況**：暗褐色～黒褐色土を主体とする。**床面**：SI-4の外側にSI-7が残存していると仮定する。北側中央部が最も高く、地山黒褐色土と近似した硬化面を形成し、その東に高まりがある。図中で(SI-6)とした部分は段差を挟んで北は地床、南は薄い貼床を施す。(SI-11)とした細長い範囲は他の床面よりも高い地床で、棚状施設に類似する。**掘り方**：全体に掘り込みは浅い。**カマド**：調査区外東壁と予想する。北東隅に近い東壁面に、Hr-FAブロックとV層(As-C混黒色土)ブロックが逆U字状に貼り付いた不明遺構がある。当初は木の根と思われたが、ほかに同様の現象がないこと、この部分は竪穴壁が屈曲する位置であることを考慮し、人為的構造物の可能性を残しておきたい。**土坑・貯蔵穴**：北西隅の土坑1は貯蔵穴の可能性がある。**ピット・溝**：P1・P2が主柱穴である。北壁東側にのみ周溝が設けられる。**遺物出土状況**：少量で、小片主体である。**遺物**：5点を図示したが、明確な時期判定資料に欠ける。**所見**：一辺7mを超す大型住居であり、仮にSI-4も段差であると考えた場合、竪穴内部空間を複雑に分割利用していたものと推測される。

SI-8 (遺構：第13図、第1表、PL4 / 遺物：第22図、第11表、PL7)

時期：古代。8世紀第3四半期頃。**規模**：東西2.83m、南北推定(4.50)m、深さ27cm。**主軸方位**：N-100°-W。**形態**：長/短比(1.0=正方形)が約1.6となる隅丸長方形と推測する。**検出状況**：竪穴南側の3/5はSI-7によって消滅する。基本層序VI層上面で検出した。**重複関係**：SI-10とSN-1を破壊し、SI-7によって切られる。ただし、掘り方部分はSI-7の範囲内に破壊を免れて残存していた。**覆土堆積**

状況：褐～暗褐色土を主体とする。床面：中央部は硬化する。掘り方：全体に浅く掘り込まれ、壁際が溝状に深く掘り込まれる。カマド：西壁中央付近にカマド状遺構が付設される。地山ブロックを用いてカマドのような構造を形成しているが、焼土・灰を一切伴わず、カマドとするには躊躇する。本遺構前の床は硬化しないが、周溝は途切れています。住居構築当初から形成されていたものと考える。土坑・貯蔵穴：不明。ピット・溝：カマド状遺構以外は周溝が全周する。遺物出土状況：中層～下層にかけて、良好な資料が出土した。遺物：土師器環（2）は広範囲にタールが付着する。4は底部外面に墨書があるが、判読不能である。所見：カマド状遺構を基準にすると、西向き横長方形の住居である。

SI-9（遺構：第9・10図、第1表、PL2/遺物：第22図、第12表、PL7）

時期：古代。8～9世紀。規模：東西〈1.65〉mあるいは3m以上、南北〈1.40〉m、深さ42cm。**主軸方位**：N-90°。形態：隅丸方形と推測する。南西隅の湾曲は大きい。**検出状況**：大半は調査区外にある。基本層序V～VI層上面で検出した。**重複関係**：軸方向がほぼ同じで東隣のSI-3と全く重複する。重複箇所覆土は非常に近似するが、竪穴壁のズレや周溝を基に重複と判断した。本遺構が古い。51Pに切られ、52Pは古い。**覆土堆積状況**：褐～暗褐色土を主体とする。床面：中央部は硬化し、一部は高まりとなる。掘り方：全体に浅く掘り込まれ、竪穴の形状に合わせて溝状に深く掘り込まれる。カマド：調査区外であろう。土坑・貯蔵穴：不明。ピット・溝：南壁際に深さ10cmのP4がある。SI-3との境界付近に間仕切り状の浅い溝がある。遺物出土状況：小片主体で少量出土した。遺物：小片ながら2点を図示した。所見：SI-3とは別住居としたが、床面には明瞭な段差もなく、覆土も近似する。本来は1軒の住居である可能性があるものの、現状では断定できない。

SI-10（遺構：第13・14図、第1表、PL4）

時期：古代。9世紀後半以前。規模：東西2.42m、南北〈1.11〉m、深さ34cm。**主軸方位**：N-20°-WもしくはN-70°-E。形態：隅丸方形と推測する。南東隅の湾曲は大きい。一辺3m以下の小型住居であろう。**検出状況**：北半は調査区外にある。基本層序VI層上面で検出した。**重複関係**：南側・東側はSI-8・9に破壊され、北半分は区外にあるため、わずかしか調査できていない。**覆土堆積状況**：褐～暗褐色土を主体とする。床面：中央部は硬化する。掘り方：全体に浅く掘り込まれ、東・南側が溝状に深く掘り込まれる。カマド：不明。調査区外であろう。土坑・貯蔵穴：不明。ピット・溝：わずかに周溝を確認した。遺物出土状況：小片主体で少量出土した。遺物：図示できなかった。所見：小型住居と推測するが、SI-8と同様に長方形の可能性もある。

SI-12（遺構：第14図、第1表、PL4）

時期：古代。規模：東西2.12m、南北3.33m。**主軸方位**：N-23°-W。形態：隅丸長方形と推測する。**検出状況**：基本層序VI層上面において炭化物が広く散布する範囲をもって、竪穴掘り方覆土の残存部分と判断した。**重複関係**：SI-1やピットに切られる。掘り方：褐～暗褐色土の掘り方覆土で、全体に浅く掘り込まれ、部分的に深い。ただし、下部には倒木痕が存在するものと思われる。カマド：北壁中央に竪穴から突出するような浅い掘り込みがあり、カマド掘り方の可能性がある。ただし、焼土は未検出である。土坑・貯蔵穴：不明。ピット・溝：北東隅部から東壁北半にかけて、幅の狭い周溝が残存する。遺物出土状況：出土していない。所見：竪穴の掘り方のみが、わずかに残存した住居跡と判断した。

3. 土坑（遺構：第5・15図、第2表、PL4・5）

土坑はSK-2～6の5基を確認した。全て中近世以降に帰属する。以下概要を記し、諸属性は第2表を参照されたい。

SK-2は不整円形状を呈し、下部には古代のピット（44P・45P）がある。SK-3の南端を切る。

SK-3は南北軸の不整長方形状を呈し、底面には小ピットのほか、高まりも伴う。SK-4より新しい。

SK-4は東西軸に細長い不整長方形である。北壁側は表土によって消失している。西端部は、SK-3に切られながらも痕跡が確認できた（破線部分）。SK-6は、楕円形を呈した小土坑で、SI-7の北東隅に位置する。SK-2～4・6については、いずれも褐色～灰褐色を基調としたAs-B混土で埋没しており、全て用途不明である。

SK-5はSK-4より新しく、大半が調査区外にある。壁面の赤化・硬化が顕著であり、底面付近での灰層堆積状況から、何らかの焼成土坑と考えられる。灰層からは、小さな炭化材が1点出土した。

4. ピット（遺構：第16～18図、第3表、PL4/遺物：第23図、第13表、PL7）

ピットは中近世以降を6基（1～4P、24P、49P）、古代を70基、計76基を確認した。諸属性は第3表を参照していただきたい。中近世以降のピットについては、土坑も含めて、調査区の東側と西側の2カ所にまとまって分布する傾向がある。

古代のピット群は西側に集中して分布し、掘立柱建物跡の分布と重なる。出土遺物からは住居跡群と同時期頃と考えられるが、大半はSI-1・2より新しいものと推察する。東側の52Pはかなり深く、SI-9構築時には閉塞されていたと考えられる。39P出土の結晶片岩はこもあみ石と考えられる。44P・56P出土の須恵器壺はSI-2の（4）と、須恵器甕破片はSI-4の（11）と同一個体であろう。

5. 掘立柱建物跡（遺構：第18図、第3・4表、PL4/遺物：第23図、第17表、PL7）

同一地点の重複事例として、東西軸長方形のSB-1と略正方形を呈するSB-2の2棟を想定した。両者ともに総柱型で、柱穴の切り合い関係から、SB-1が新しい。少ない出土遺物から時期を判定するのは難しいが、SI-1より新しく、9世紀後半期頃と推定しておきたい。

6. 溝跡（遺構：第19図、第5表、PL5）

調査区南壁中央付近で、SD-1を確認した。覆土はHr-FAブロックを多量に含み、覆土も明褐色～黄褐色を呈する。遺物は出土しなかったが、SI-2に切られていることや覆土の特徴から考えて、古墳時代後期以降から8世紀よりも古い時期にあたるものと推測する。細砂などは堆積しておらず、区画溝の可能性が高いものと思われる。

7. 畠状遺構（遺構：第19図、第5表、PL5）

SN-1は、As-Cを含む暗～黒褐色土が堆積した細長い3条の平行溝である。畝間痕跡とした場合、その間隔は60cmと90cmを測る。覆土にはHr-FAを含まないため、時期は古墳時代前中期頃と推測する。SN-2は、V層上面においてHr-FAブロックを顕著に含む範囲を平面図化した。動植物由来の可能性も払拭できないが、細長い形状を呈する部分は、南北に直交するような軸方向が看取されたため、周辺遺跡の状況を加味しつつ、耕起の可能性を残しておきたい。時期は古墳時代後期以降と推測する。

第1表 穴穴住跡一覧表 [単位: cm]

遺構名	主軸方位	平面形	長軸×短軸×深さ	カマド	貯蔵穴	柱穴等の施設	覆土	時期
SI-1	N-78°-W	隅丸長方形	380 × <192> × 19 × 31	東壁	(南東隅)	ビット1。出入り口ビット か。	褐色～黒褐色	古代 9世紀後半
	出土 遺物				所 見			
SI-2	N-12°-E	隅丸方形	362 × <205> × 35	北東隅	北東隅	床面が被熱し、上層焼失の可能性。底床は2枚以上。壁際の床はやや深く削り 込まれる。南東隅には、貯蔵穴が存在していた可能性あり。SI-1・2より古い。	出入り口開きビット3 間仕切溝、周溝	褐色～黒褐色、上層 壁際と中央が礎化。
	出土 遺物				所 見			
SI-3	N-2°-E	隅丸方形	<222> × <218> × 41 × 54	不明	不明	ビット3、間仕切溝、周 溝	褐色～黒褐色。一部 は人為的埋め戻しか。	古代 9世紀後半
	出土 遺物				所 見			
SI-4	N-85°-W	隅丸長方形	564 × <273> × 32 × 53	区外東壁か	不明	(主柱穴2)	褐色～黒褐色	古代 8世紀後半
	出土 遺物				所 見			
SI-5	須恵器壺、須恵器坪、須恵器壇、須恵器甕 鉄製品(ヤヌ・釣・刀子)				SI-7を切る縫穴としたが、SI-7内の段差の可能性残る。須恵器甕の同一個体 破片は、SI-3や竪立柱柱穴からも出土。			
	欠番 (SI-4に統合)							
SI-6	欠番 (SI-7に統合)							
SI-7	N-87°-W	隅丸長方形	738 × <406> × 26 × 36	不明	北東隅	主柱穴2	暗～黒褐色	古代 8世紀後半
	出土 遺物				所 見			
SI-8	N-100°-W	隅丸方形	(450) × 283 × 27	(西壁)	不明	周溝	褐色～暗褐色	古代 8世紀後半
	出土 遺物				所 見			
SI-9	(N-90°)	隅丸長方形	<165> × <140> × 42	不明	不明	小ビット1。間仕切溝	褐色～暗褐色	古代 8-9世紀
	出土 遺物				所 見			
SI-10	N-20°-Wか N-70°-E	隅丸方形	282 × <111> × 34	不明	不明	周溝	褐色～暗褐色	古代 8世紀前半
	出土 遺物				所 見			
SI-11	土師器細片				一辺3m未満の小型住居か。SI-8・9より古い。			
	欠番 (SI-7に統合)							
SI-12	N-23°-W	隅丸長方形	333 × 212	北壁か	不明	不明	暗～黒褐色土	古代
	出土 遺物				所 見			
	なし				炭化物散在範囲をもとに。VI層上面で検出。堅穴掘り方の一部のみ残存。			

第2表 土坑一覧表 [単位: cm]

遺構名	主軸方位	長径×短径	深さ	平面形	断面形	遺物	所見	時期
SK-1	欠番							
SK-2	N-48°-E	83 × 70	16.6	不整円形	楕円状	土師器細片	底面中央に高まり。	中近世以降
SK-3	N-12°-W	<176> × <12>	12.9	不整長方形	浅皿状	土師器細片	SK-4より新しい。	中近世以降
SK-4	N-76°-E	<482> × <13>	9.7	不整椭円形	浅皿状	土師器細片	SK-3・5より古い。SI-1を切る。	中近世以降
SK-5	N-88°-W	<127> × <35>	52.3	不整椭円形	逆台形	土師器細片	底面灰層。壁面被熱変化。SK-4より新しい。	中近世以降
SK-6	N-68°-E	77 × 62	17.7	椭円形	浅皿状	土師器細片		中近世以降

第3表 ピット一覧表 [計76基。単位: cm]

遺構名	主軸方位	長径×短径	深さ	平面形	遺物 帰属SB	時期
1P	N - 6° - E	<35> × 18	17	楕円形		
2P	N - 18° - W	<40> × <22>	14	不整 楕円形		中近世 以降
3P	N - 49° - E	43 × 26	46	楕円形		
4P	N - 73° - W	38 × 28	2	楕円形		
5P	N - 63° - W	<30> × 28	1	楕円形	須恵器壺	古代
6P	N - 23° - W	<74> × 57	18	楕円形		古代
7P	N - 35° - W	<68> × 56	24	楕円形		古代
8P	N - 4° - W	68 × 48	10	楕円形		古代
9P	N - 4° - E	42 × 42	20	円形		古代
10P	N - 46° - W	36 × 39	19	楕円形		
11P	N - 56° - E	<54> × <38>	20	不整 楕円形	須恵器壺	古代
12P	N - 19° - W	54 × 36	28	不整形		古代
13P	N - 72° - W	<53> × <42>	10	楕円形		古代
14P	N - 68° - W	<48> × <30>	18	楕円形		古代
15P	N - 2° - E	46 × 32	34	楕円形	須恵器壺	古代
16P	N - 16° - E	92 × 74	44	不整 楕円形	SB-1	古代
17P	欠番					
18P	N - 36° - W	56 × 52	24	略円形		古代
19P	N - 65° - W	32 × 26	8	楕円形	A= C 古墳時代 多量	以降
20P	欠番					
21P	N - 37° - W	56 × 44	62	楕円形	SB-2	古代
22P	N - 37° - W	<66> × 50	45	不整形	SB-1	古代
23P	N - 56° - W	26 × 22	10	楕円形		古代
24P	N - 11° - W	72 × 52	54	楕円形		中近世以降
25P	N - 76° - E	<40> × <16>	44	円形		古代
26P	N - 76° - E	76 × <20>	55	楕円形	SB-1	古代
27P	N - 14° - W	88 × <72>	46	楕円形	SB-1	古代
28P	N - 12° - W	40 × 34	23	楕円形	SB-2	古代
29P	N - 13° - W	<80> × 56	41	楕円形	SB-1	古代
30P	N - 68° - W	42 × 33	35	楕円形	SB-2	古代
31P	N - 90° - W	<34> × <12>	10	楕円形	SB-2	古代
32P	N - 63° - W	<68> × <46>	38	楕円形		古代
33P	N - 79° - E	26 × <18>	35	楕円形	SB-2	古代
34P	N - 16° - E	<44> × 29	29	楕円形		古代
36P	N - 21° - W	30 × 24	24	楕円形		古代
37P	N - 25° - W	42 × 25	24	不整 楕円形		古代
38P	N - 56° - W	28 × 22	20	楕円形		古代
39P	N - 34° - W	24 × 22	17	楕円形	SB-2	古代
40P	N - 6° - E	38 × 28	22	楕円形	SB-1	古代
41P	N - 8° - W	58 × 26	5	楕円形		古代
42P	N - 4° - E	94 × 62	43	不整 楕円形	SB-2	古代
43P	N - 10° - E	88 × 58	52	楕円形	須恵器壺 SB-1	古代

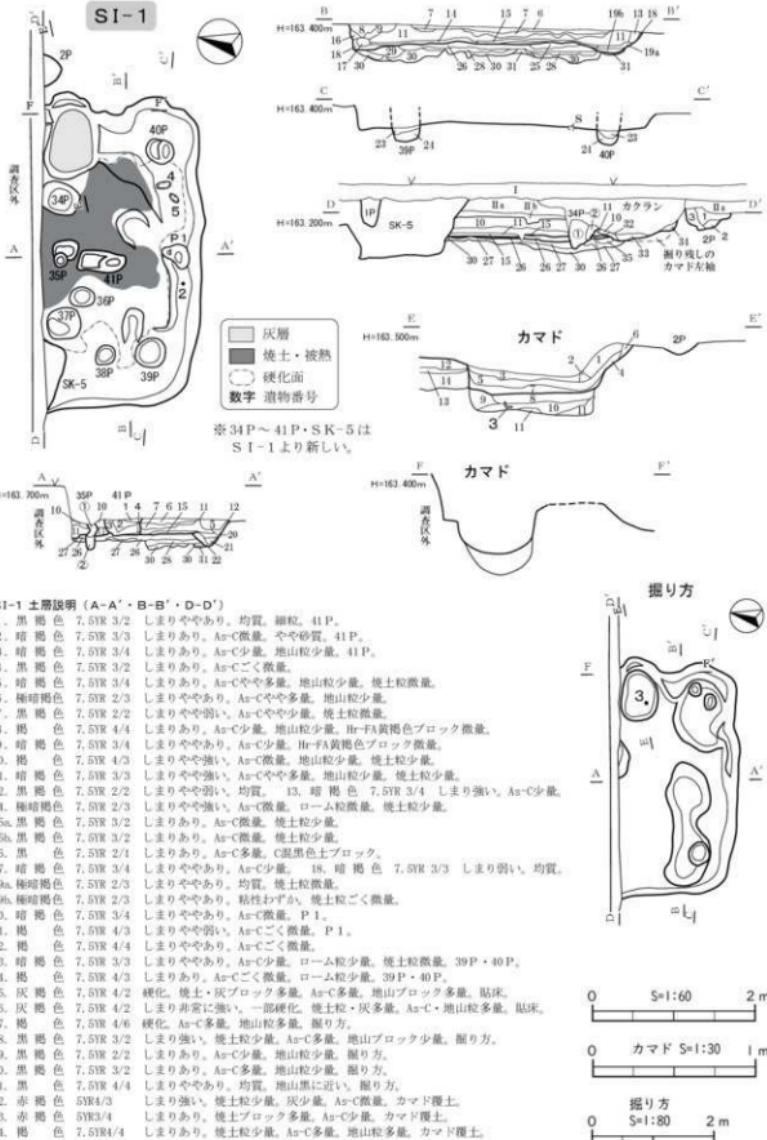
遺構名	主軸方位	長径×短径	深さ	平面形	遺物 帰属SB	時期
44P	N - 30° - E	<100> × 96	71	不整 楕円形	土師器壺 須恵器壺 SB-1	古代
45P	N - 12° - E	42 × 36	59	楕円形	SB-2	古代
46P	N - 34° - W	84 × <40>	38	不整 楕円形		古代
47P	SI - 7 P1に変更					
48P	SI - 7 P1に変更					
49P	N - 2° - E	41 × 40	33	略円形		中近世以降
50P	N - 14° - E	89 × <41>	66	楕円形	須恵器壺	古代
51P	N - 65° - W	28 × <14>	13	楕円形		古代
52P	N - 73° - E	41 × 37	70	略円形		古代
53P	N - 44° - E	69 × 63	84	楕円形		古代
54P	N - 80° - W	64 × 40	17	楕円形		古代
55P	N - 73° - W	64 × 36	57	不整 楕円形	SB-2	古代
56P	N - 73° - W	80 × 78	76	不整 円形	SB-1	古代
57P	N - 43° - E	132 × 88	65	楕円形	SB-1	古代
58P	N - 6° - E	(16) × 18	9	楕円形		古代
59P	欠番					
60P	N - 2° - E	46 × <42>	7	円形		古代
61P	N - 3° - E	39 × 37	10	円形		古代
62P	N - 27° - W	32 × 30	14	円形		古代
63P	N - 19° - W	46 × 38	10	楕円形		古代
64P	N - 21° - W	44 × 38	16	楕円形		古代
65P	N - 21° - W	46 × <40>	9	楕円形		古代
66P	N - 65° - E	38 × <24>	17	楕円形		古代
67P	N - 24° - W	26 × 21	7	楕円形		古代
68P	N - 36° - W	34 × 30	17	楕円形		古代
69P	N - 37° - W	24 × 22	13	不整 円形		古代
70P	N - 82° - W	62 × 28	21	楕円形		古代
71P	N - 31° - W	54 × 24	33	不整 楕円形	SB-1	古代
72P	N - 58° - W	34 × 24	12	不整 楕円形	SB-2	古代
73P	N - 32° - E	36 × 28	36	楕円形		古代
74P	N - 7° - W	28 × <14>	8	不整 楕円形		古代
75P	N - 70° - W	(19) × 16	12	不整 楕円形		古代
76P	N - 17° - E	343 × 28	22	楕円形		古代
77P	N - 4° - W	30 × 28	11	略円形		古代
78P	N - 4° - W	56 × 54	20	円形		古代
79P	欠番					
80P	N - 68° - W	(28) × 20	11	楕円形		古代
81P	N - 5° - E	32 × 26	9	楕円形		古代
82P	N - 25° - W	<30> × 24	12	楕円形		古代

第4表 据立柱建物跡一覧表 [単位: m, m²]

遺構名	主軸方位	平面形	構造	棟方向	梁間×桁行	平均柱間	面積	所見	時期
SB-1	N - 84° - W	長方形	礎柱	東西棟	4.43 × 5.76 2間×3間	棟方向1.96 m 梁間2.43 × 1.92 m	約25.5 m ²	主軸方向はSI - 3 + 4と近似。 SB-2より新しく。	古代
SB-2	N - 90°	正方形状	礎柱	南北棟	3.92 × 4.10 2間×2間	棟方向・梁間1.98 m	約16.1 m ²	SB-1より古い。	古代

第5表 溝跡・畠状遺構一覧表 [単位: cm]

遺構名	走向方位	上端幅×下端幅	深さ	断面形	遺物	所見	時期
SN-1	N - 57° - E	76 ~ 62 × 73 ~ 52	20	逆台形	土師器細片	土器上にHr - FAブロックを頗著に含む。	古墳時代以降
遺構名	走向方位	上端幅×下端幅	深さ	断面形	遺物	所見	時期
SN-1	N - 46° - E	6 ~ 15 × 2 ~ 8	5	U字形	—	3条の溝（畠状）の間隔は60cm, 90cm,	古墳時代以降
SN-2	N - 85° - E	—	3	—	—	V溝上面でHr - FAが分布する範囲。	古墳時代以降



第7図 遺構図(1) SI-1

SI-1 カマド土層説明 (E-E')

- 褐色 7.5YR 4/3 しまりやあり。焼土粒ブロックや多量。As-C微量。
- 暗褐色 7.SYR 3/4 しまりやあり。焼土粒や多量。
- 灰褐色 7.5YR 4/2 しまりやあり。焼土粒や多量。As-Cごく多量。
炭化物微量。鉄青少量。
- 黒褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。焼土粒少量。黒灰少量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4-3/3 しまりややあり。焼土粒や多量。As-C微量。
- 褐色 7.5YR 4/6 しまりややあり。褐色土色土ブロック主体。
- 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりややあり。焼土粒や多い。As-C微量。
- 黒褐色 7.5YR 2/2 しまりやあり。焼土粒少量。As-C微量。地山粒微量。
- 黒褐色 7.5YR 2/1 しまりややあり。焼土粒や多量。
- 黒褐色 7.5YR 3/1 しまりやあり。粘性ややあり。焼土粒や多量。
As-C微量。黒灰少量。
- 黒褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。焼土粒微量。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりややあり。焼土粒や多量。As-C微量。
- 黒褐色 7.5YR 3/1 しまりややあり。焼土粒少量。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/3-3/2 しまりややあり。焼土粒少量。As-C微量。掘方。

2P 土層説明 (S I-1 D-D')

- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややあり。As-C微量。

- 黒褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。
- 黒褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。

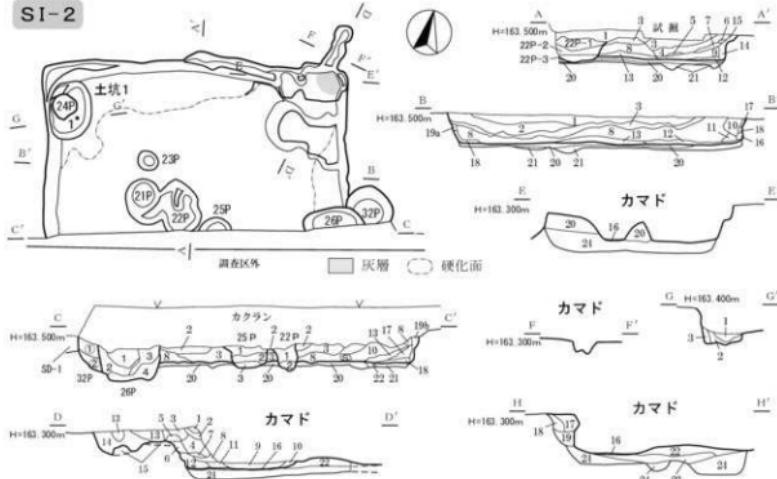
34P 土層説明 (S I-1 D-O')

- 褐色 7.5YR 4/3 しまりややあり。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややあり。As-C微量。

35P 土層説明 (S I-1 A-A')

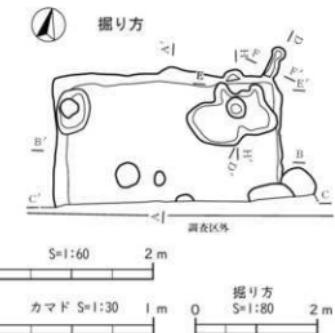
- 褐色 7.5YR 4/3 しまりややあり。As-C微量。地山粒少量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりやややあり。As-C微量。
- 暗褐色 7.SYR 3/3 しまりややあり。As-C微量。
- 黒褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。

SI-2



S I-2 土層説明 (A-A'・B-B'・C-C')

- 褐色 7.5YR 4/3 しまりややあり。As-C多量。Hr-FA黄褐色粒微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまり強い。As-C多量。Hr-FA黄褐色粒微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややあり。As-C多量。Hr-FA黄褐色粒微量。
- 黒褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。
- 黒褐色 7.5YR 2/1 しまり非常に強い。As-C微量。やや砂質。
- 明褐色 7.5YR 5/8 楊化。シルト質土主張。
- 暗褐色 7.5YR 4/6 しまり非常に強い。Hr-FA黄褐色粒多量。As-C少量。
- 褐色 7.5YR 4/3 しまりややややあり。As-C多量。
- 褐暗褐色 7.5YR 2/3 しまりやややや強い。硬化ブロック少量。As-C多量。
- 褐色 7.5YR 4/3 しまりややややあり。As-C少量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややや弱い。As-C微量。
- 黒褐色 7.5YR 2/2 しまりややや弱い。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 2/1-3/3 しまりややややあり。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややややあり。均質。
- 黒褐色 7.5YR 2/1 しまりあり。C混黑色土ブロック。
- 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややややあり。均質。
- 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりあり。As-C微量。褐色土ブロック少量。
- 褐暗褐色 7.5YR 2/3 しまりやややや強い。As-C微量。
- 暗褐色 7.5YR 3/2 しまり弱い。As-C微量。堅体崩壊點か。
- 黒褐色 7.5YR 3/1 楊化。As-PT微量。地山か。
- 黒褐色 7.5YR 3/1 しまり強い。As-PT微量。地山か。
- 黒褐色 7.5YR 3/2 しまり強い。粘性わざか。白色輕石少量。



第8図 道構図(2) SI-1 / SI-2

SI-2 カマド土層説明 (D-D'・E-E'・F-F')

1. 灰褐色 7.5YR 4/2 しまり非常に強い。As-C微量。
2. 暗褐色～明褐色 7.5YR 4/5-3 しまり非常に強い。
明褐色シルトブロック多量。As-C微量。
3. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややあり。As-Cごく微量。
4. 褐色 7.5YR 4/4 やややややあり。明褐色粒少量。
5. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりややあり。C混黑色土。
6. 黒褐色 7.5YR 2/1 しまり強い。
7. 明褐色 7.5YR 5/6 しまりややあり。明褐色粒多量。As-C微量。
8. 黑褐色 7.5YR 4/6 しまりあり。明褐色粒多量。As-C微量。
9. 褐色 7.5YR 4/6 しまりややあり。明褐色粒少量。
10. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややあり。As-Cごく微量。
11. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまりごく微量。粘性わずか。
- 明褐色粒ごく微量。
12. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりやや弱い。褐色土粒多量。As-C微量。
13. 褐色 7.5YR 4/3 しまりやや弱い。褐色土粒少量。
14. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまりやや弱い。褐色土粒少量。As-C微量。
15. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりやや弱い。粘性わずか。地山。
16. 暗褐色 7.5YR 4/1 しまり弱い。灰少量。褐土ごく微量。
17. 褐色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C多量。地山。
18. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりやや弱い。As-C微量。カマド植。
19. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまりやや弱い。As-C微量。地山。
20. 褐色 7.5YR 4/3-4/6 しまりやや弱い。地山ブロック少量。C混黑色土ブロック少量。カマド植。
21. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまり弱い。C混黑色土ブロック多量。As-C多量。カマド植。
22. 灰褐色～褐色 7.5YR 4/2-4/4 しまり非常に強い。粘性わずか。
地山粘質土ブロック多量。C混黑色土ブロック少量。
23. 黑褐色 7.5YR 2/1 硬化。As-C微量。粘性わずか。均質。床。
24. 黑褐色 7.5YR 2/2-3/2 しまりややあり。As-C微量。均質。

SI-2 土層1 土層説明 (G-G')

1. 褐色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C多量。
2. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C少量。
3. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりやや弱い。As-C微量。

SI-2 土層説明 (S1-2 C-C')

1. 褐色 7.5YR 4/3 しまりややあり。As-C多量。
As-TP微量。
2. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりあり。As-C少量。As-TP微量。

SI-2 土層説明 (S1-2 C'-C')

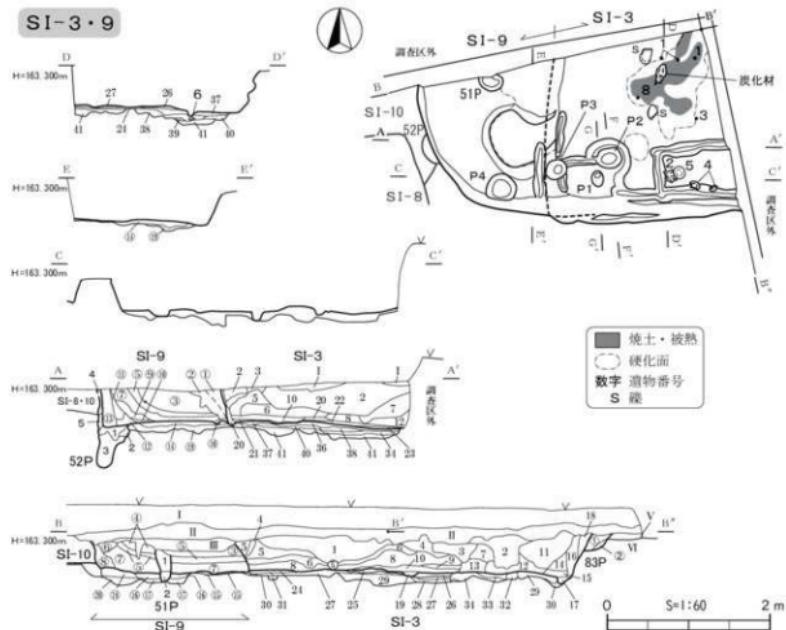
1. 褐色 7.5YR 4/4 しまり強。As-C多量。地山粒少量。
2. 褐色 7.5YR 4/3 しまりあり。As-Cや多量。
地山粒少量。As-TP微量。
3. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりややあり。As-C少量。
地山粒少量。As-TP微量。
4. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりややあり。As-C少量。
地山粒微量。As-TP微量。

SI-2 土層説明 (S1-2 C-C')

1. 褐色 7.5YR 4/4 しまり強。As-C多量。地山粒少量。
2. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりあり。As-C少量。地山粒少量。
3. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりあり。As-C多量。地山粒少量。

SI-2 土層説明 (S1-2 C-C')

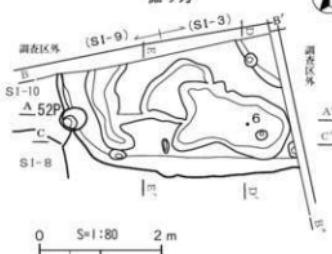
1. 褐色 7.5YR 4/4 しまり強。As-C多量。As-TP微量。
2. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C少量。As-TP微量。



第9図 遺構図(3) SI-2 / SI-3・SI-9

SI-3・9

掘り方



SI-9 土層説明 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E')

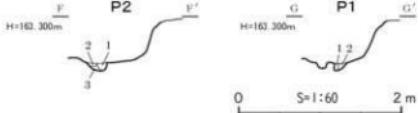
1. 暗褐色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C少量。
2. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C微量。
3. 黒褐色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C微量。
4. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C少量。
5. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C少量。
6. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりあり。As-C少量。
7. 暗褐色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C少量。
8. 褐色 7.5YR 4/3 しまりあり。As-C少量。
9. 暗褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。
10. 褐色 7.5YR 4/3 しまりややあり。As-C少量。
11. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまりややあり。As-C少量。
12. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。
13. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C非常に多い。
14. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C少量。
15. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。
16. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。
17. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-IP微量。
18. 抹茶色 7.5YR 4/3 しまりあり。As-C少量。As-IP微量。
19. 黑褐色 7.5YR 3/1 しまりややあり。As-C少量。腐化物微量。
20. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C少量。腐質。
21. 灰褐色 7.5YR 4/2 しまり強い。燒土粒多量。灰褐色少量。
22. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまり強い。燒土粒多量。灰褐色少量。
23. 灰褐色 7.5YR 4/2 しまりややあり。燒土粒多量。同構。
24. 黑褐色 7.5YR 2/2 硬化。As-C少量。粘床。
25. 黑褐色 7.5YR 3/4 硬化。燒土ブロック主体。黑色土ブロック多量。
26. 暗褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。一部硬化。燒土粒・青灰土主体。腐化物少量。粘床。
27. 黑褐色 7.5YR 3/1-2/2 硬化。As-C少量。地山粒B多量。燒土粒B多量。粘床。
28. 黑褐色 7.5YR 3/2-3/1 しまり強い。燒土ブロック少量。黑色土少量。As-C微量。履り方。
29. 黑褐色 7.5YR 2/2 硬化。As-C少量。灰褐色。燒土粒B少量。粘床。
30. 明褐色 7.5YR 5/8 硬化。地山主体。履り方。
31. 黑褐色 7.5YR 3/1 しまりあり。地山粒多量。腐化物微量。履り方。
32. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。粘床。
33. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまり非常に強い。一部硬化。As-Cや多い。地山粒・ブロック少量。粘床。
34. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。地山粒・ブロック微量。粘床。
35. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりやや弱い。履り方。
36. 反~暗褐色 7.5YR 2/3-4/2 硬化。As-C多量。燒土粒多量。粘床(?)少量。地山粒多量。粘床。
37. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまり強い。As-C多量。地山粒多量。粘床。
38. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C多量。地山粒ブロック微量。粘床。
39. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまり非常に強い。As-C多量。燒土粒微量。地山粒少量。旧粘床。
40. 黑褐色 7.5YR 3/1 しまり非常に強い。一部硬化。As-C多量。地山粒ブロック少量。旧粘床。
41. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまりあり~強い。As-C多量。地山粒ブロック少量。履り方。

SI-9 土層説明

1. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C微量。
2. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C微量。
3. 黑褐色 7.5YR 5/8 しまりあり。地山粒主体。埋め戻し。
4. 暗褐色 7.5YR 4/4 しまり弱い。地山粒少量。
5. 暗褐色 7.5YR 3/2 しまりやや少量。As-C少量。
6. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりやや少量。As-C微量。
7. 暗褐色 7.5YR 3/3 しまりあり。As-C微量。地山粒少量。

83P 土層説明

1. 褐色 7.5YR 4/4 しまり強い。As-C微量。Hr-FAブロック少量。
2. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C少量。



SI-3 土層説明 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E')

1. 黄褐色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C多量。Hr-FAブロック微量。
2. 黄褐色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C多量。
3. 黄褐色 7.5YR 4/4 しまり強い。As-Cやや多量。燒土粒多量。
4. 黄褐色 7.5YR 4/4 しまり非常に強い。As-Cやや多量。燒土粒少量。
5. 黄褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C多量。腐化物微量。
6. 黄褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。
7. 黄褐色 7.5YR 3/3 しまり非常に強い。As-C多量。燒土粒少量。炭化物微量。
8. 黄褐色 7.5YR 3/3 しまりややあり。As-C多量。燒土粒やや多量。黑色土ブロック少量。
9. 黄褐色 7.5YR 3/2 しまり強い。燒土粒主体。ごく微量。
10. 黄褐色 7.5YR 3/1-2/2 しまりややあり。黒褐色少量。燒土粒少量。
11. 黄褐色 7.5YR 3/3 しまり強い。As-C多量。
12. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりやや強い。As-C多量。地山粒微量。
13. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまり非常に強い。As-C非常に多い。
14. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C少量。
15. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまり強い。As-C多量。
16. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりやや弱い。As-C少量。
17. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまり弱い。As-IP微量。
18. 抹茶色 7.5YR 4/3 しまりあり。As-C少量。As-IP微量。
19. 黑褐色 7.5YR 3/1 しまりややあり。燒土粒。腐化物微量。
20. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりやや弱い。As-C少量。腐質。
21. 灰褐色 7.5YR 4/2 しまり強い。燒土粒多量。灰褐色少量。
22. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまり強い。燒土粒多量。灰褐色少量。
23. 灰褐色 7.5YR 4/2 しまりややあり。燒土粒多量。同構。
24. 黑褐色 7.5YR 2/2 硬化。As-C多量。粘床。
25. 黑褐色 7.5YR 3/4 硬化。燒土ブロック主体。黑色土ブロック多量。
26. 暗褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。一部硬化。燒土粒・青灰土主体。炭化物少量。粘床。
27. 黑褐色 7.5YR 3/1-2/2 硬化。As-C少量。地山粒B多量。燒土粒B多量。粘床。
28. 黑褐色 7.5YR 3/2-3/1 しまり強い。燒土ブロック少量。黑色土少量。As-C微量。履り方。
29. 黑褐色 7.5YR 2/2 硬化。As-C多量。灰褐色。燒土粒B少量。粘床。
30. 明褐色 7.5YR 5/8 硬化。地山主体。履り方。
31. 黑褐色 7.5YR 3/1 しまりあり。地山粒多量。腐化物微量。履り方。
32. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C微量。粘床。
33. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまり非常に強い。一部硬化。As-Cや多い。地山粒・ブロック少量。粘床。
34. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。地山粒・ブロック微量。粘床。
35. 黑褐色 7.5YR 2/2 しまりやや弱い。履り方。
36. 反~暗褐色 7.5YR 2/3-4/2 硬化。As-C多量。燒土粒多量。粘床(?)少量。地山粒多量。粘床。
37. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまり強い。As-C多量。地山粒多量。粘床。
38. 暗褐色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C多量。地山粒ブロック微量。粘床。
39. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまり非常に強い。As-C多量。燒土粒微量。地山粒少量。旧粘床。
40. 黑褐色 7.5YR 3/1 しまり非常に強い。一部硬化。As-C多量。地山粒ブロック少量。旧粘床。
41. 暗褐色 7.5YR 2/3 しまりあり~強い。As-C多量。地山粒ブロック少量。履り方。

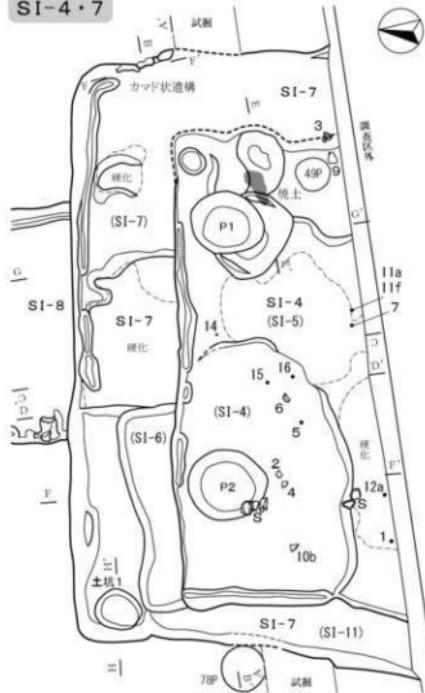
SI-3 P 1 土層説明 (E-E')

1. 黑褐色 7.5YR 2/4 しまり弱い。燒土粒ごく微量。
2. 黑褐色 7.5YR 4/3 しまりあり。ローム粒少量。

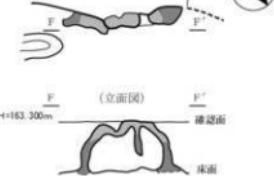
SI-3 P 2 土層説明 (D-D')

1. 黑褐色 7.5YR 4/1 しまりややあり。As-C少量。燒土粒少量。
2. 黑褐色 7.5YR 3/3 しまりややあり。As-C少量。燒土粒少量。
3. 黑褐色 7.5YR 3/2 しまりややあり。As-C少量。燒土粒微量。

SI-4・7



SI-7 カマド状造構



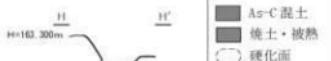
SI-4 烧土



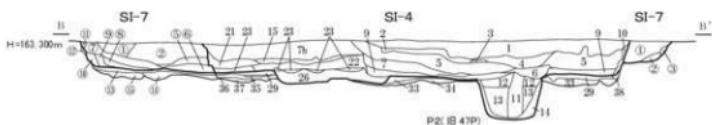
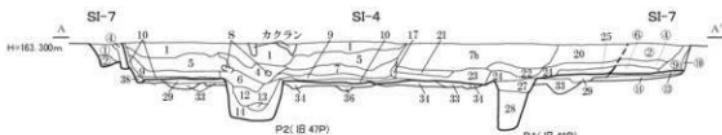
SI-4 烧土層説明 (E-E')

- 褐色 7.5YR 4/3 しりまい。As-C多量。
焼土ブロック多量。堆山ブロック少量。
- 黒褐色 7.5YR 2/2 しりまい強い。As-C少量。
地山粒少量。
- 黒褐色 7.5YR 2/2 しりまいややあり。
As-C少量。
- 黒褐色 7.5YR 2/1 しりまいあり。均質。地山黒色土主体。

SI-7 土坑 1



※SI-5とSI-6・11は、
SI-4とSI-7の床面段差
と判断してそれぞれ統合した。

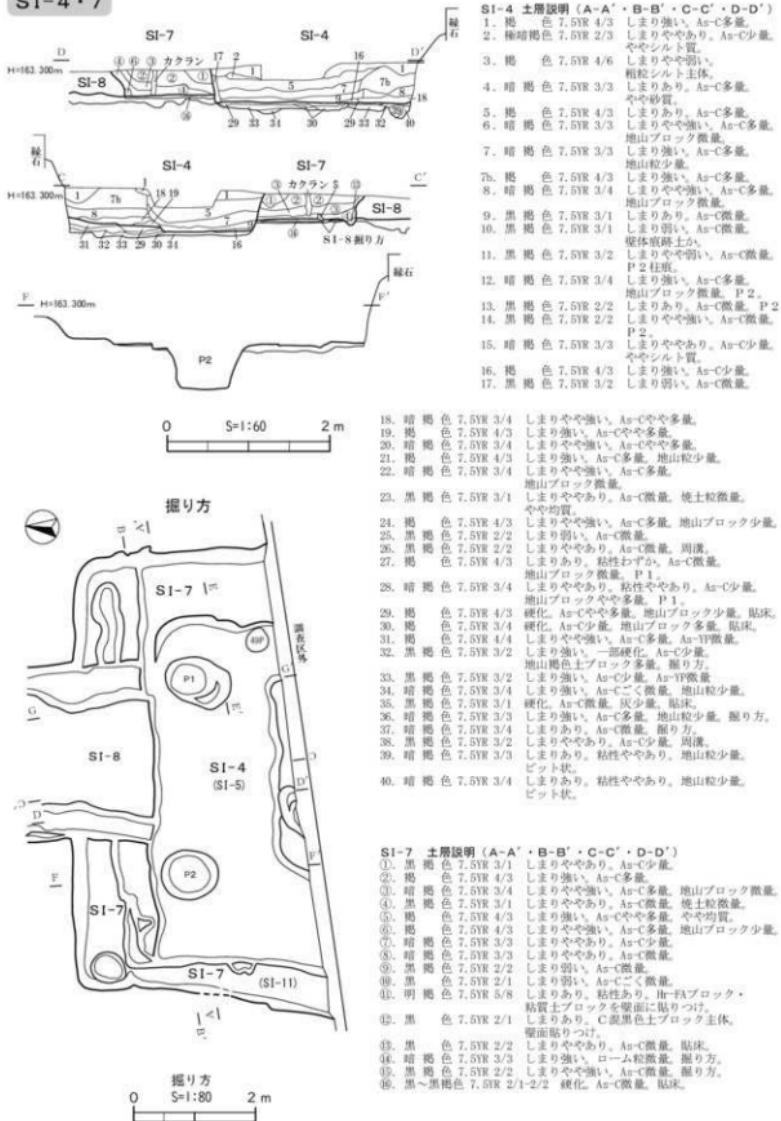


0 カマド状 S=1:30 1m

0 S=1:60 2m

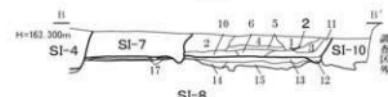
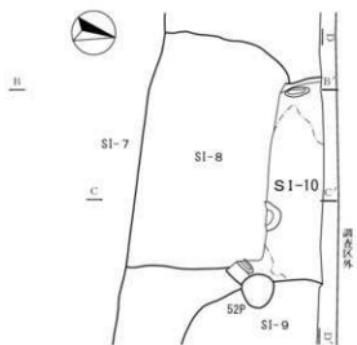
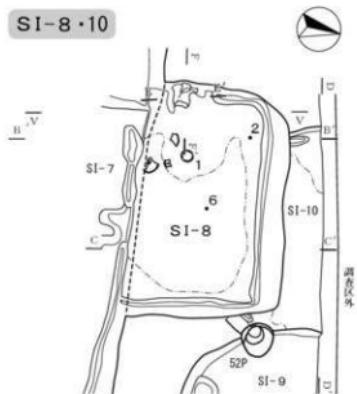
第11図 遺構図(5) SI-4・SI-7

SI-4・7

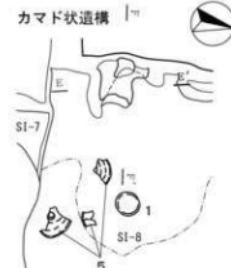
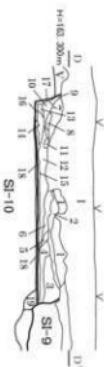


第12図 遺構図(6) SI-4・SI-7

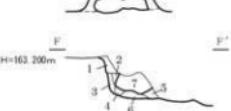
SI-8・10



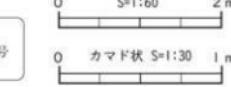
カマド状造構



H=163.200m



H=163.200m



SI-8 土層説明(A-A'・B-B'・C-C')

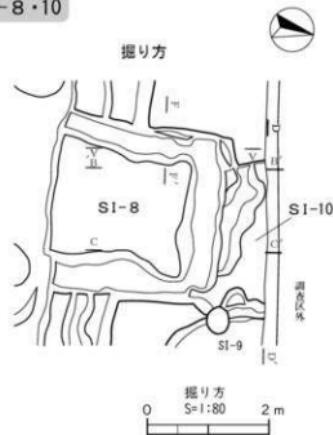
1. 黒褐色 7.SYR 3/3 しまりあり。Aa-C多量。
2. 黒褐色 7.SYR 3/3 しまりややあり。Aa-C多量。焼土粒微量。
3. 褐色 7.SYR 4/4 しまり強い。Aa-C多量。焼土粒少量。
4. 褐色 7.SYR 3/4 しまり強い。Aa-C多量。焼土粒微量。
5. 褐色 7.SYR 4/4 しまり強い。Aa-C多量。焼土粒少量。地山粒少量。
6. 黒褐色 7.SYR 3/1 しまり強い。Aa-C多量。焼土粒微量。
7. 暗褐色 7.SYR 3/4 しまりあり。Aa-C少量。
8. 灰褐色 7.SYR 4/2 しまり強い。Aa-C少量。粘土ブロック少量。黒灰少量。
9. 灰褐色 7.SYR 4/2 しまり強い。Aa-C少量。
10. 黑褐色 7.SYR 2/2 しまり強い。Aa-C微量。
11. 黑褐色 7.SYR 2/2 しまりややあり。Aa-C微量。
12. 黑褐色 7.SYR 3/3 しまりややあり。Aa-C少量。周囲。硬化。Aa-C多量。地山ブロック少量。地山粒多量。陥没。
13. 暗褐色 7.SYR 3/3 しまりややあり。Aa-C少量。周囲。硬化。Aa-C多量。地山ブロック少量。地山粒少量。掘り方。
14. 黑褐色 7.SYR 2/2 しまり強い。Aa-C微量。掘り方。
15. 黑褐色 7.SYR 2/1 しまり強い。一部硬化。Aa-C少量。地山ブロック少量。掘り方。
16. 褐色 7.SYR 4/4 しまり強い。Aa-C多量。焼土粒少量。地山粒少量。掘り方。
17. 黑褐色 7.SYR 2/1-2/2 硬化。Aa-C微量。掘り方。
18. 黑褐色 7.SYR 2/1-2/2 しまりあり。Aa-C微量。掘り方。

SI-8 カマド 土層説明(E-E'・F-F')

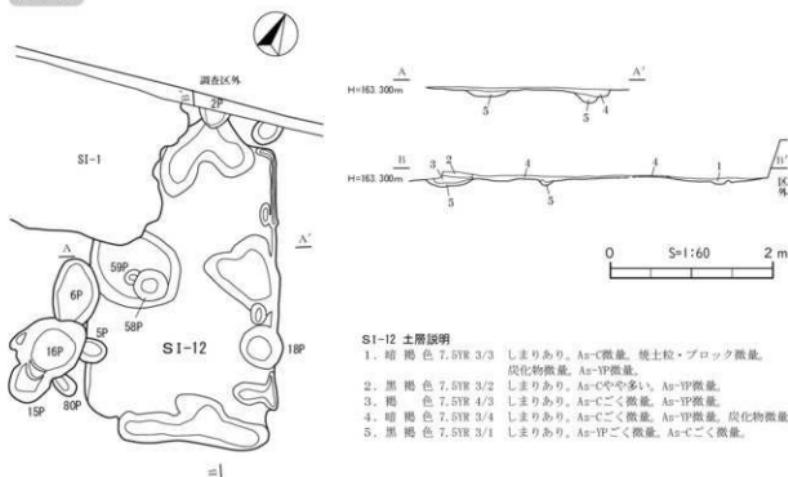
1. 灰褐色 7.SYR 4/2 しまりあり。黄褐色地山ブロック少量。Aa-C微量。
2. 黑褐色 7.SYR 3/2 しまりややあり。地山粒少量。Aa-C微量。
3. 黑褐色 7.SYR 3/1 しまり弱い。Aa-Cごく微量。
4. 褐色 7.SYR 4/3 しまりあり。Aa-C少量。
5. 暗褐色 7.SYR 3/4 しまりややあり。Aa-C少量。
6. 褐色 7.SYR 3/3 しまりあり。Aa-C少量。
7. 褐色 7.SYR 4/6-5/6 しまりあり。地山粘質土主体。小縫微量。Aa-C微量。

第13図 遺構図(7) SI-8 / SI-10 / SI-12

SI-8・10

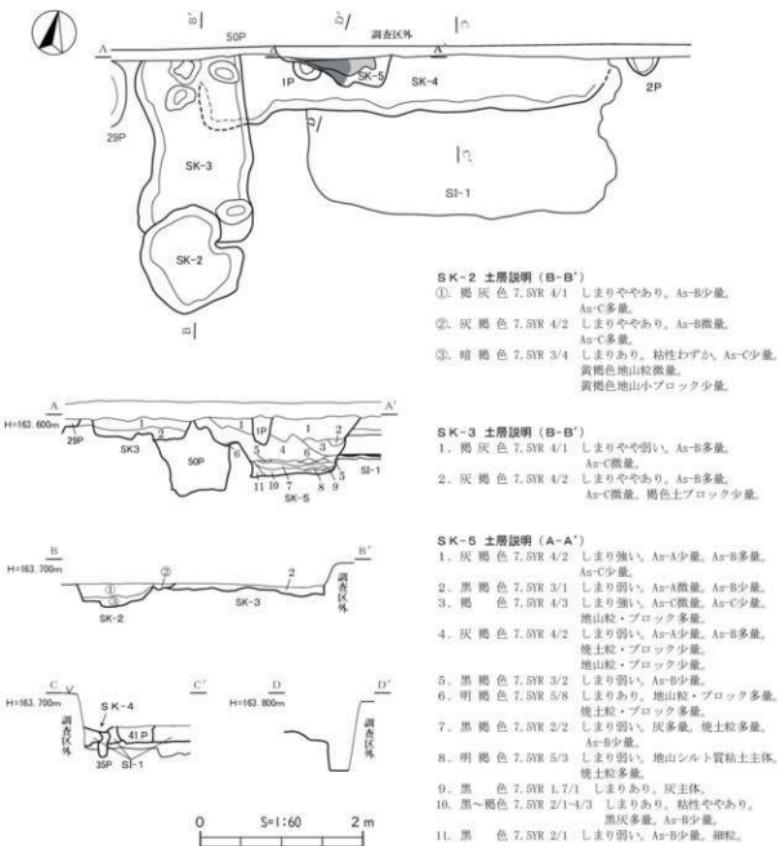


SI-12



第 14 図 遺構図 (8) SI-8 / SI-10 / SI-12

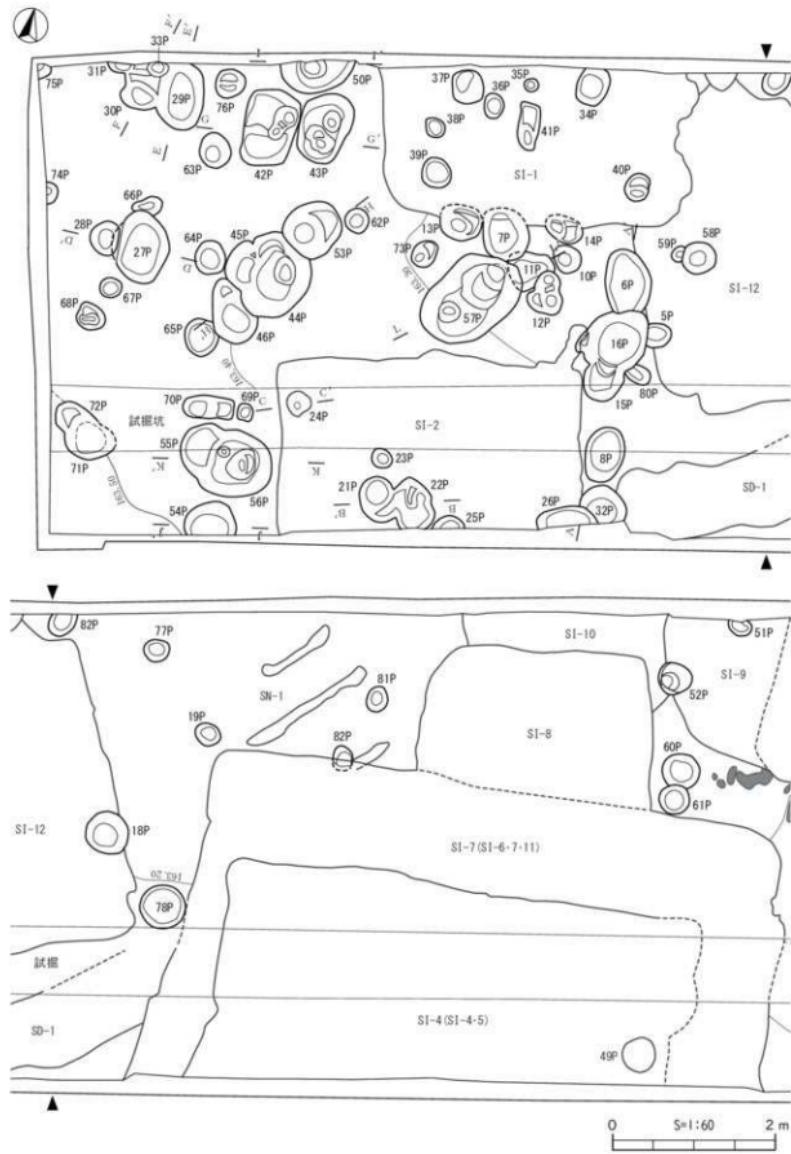
SK-2・3・4・5



SK-6

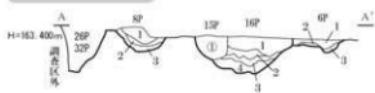


第15図 造構図(9) SK-2・3・4・5・6



第16図 遺構図(10) ピット

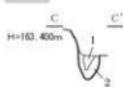
6・8・15・16・26P



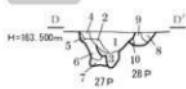
21・22P



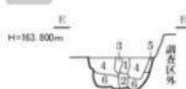
24P



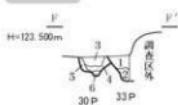
27・28P



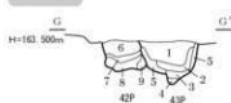
29P



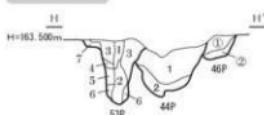
30・33P



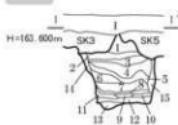
42・43P



44・46・53P



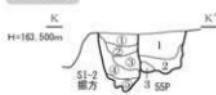
50P



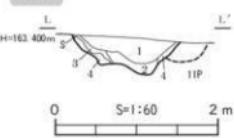
54P



55・56P



57P



6P 土壌説明 (A-A')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。As-C非常に多い。
2. 黄 色 7.5YR 4/3 しまりやや弱い。As-C微量。
3. 黒 棕 色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C微量。

B.P 土壌説明 (A-A')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。As-C多量。As-TP少量。
2. 喀 棕 色 7.5YR 3/3 しまりややあり。As-C少量。As-TP微量。
3. 黑 棕 色 7.5YR 3/2 しまりあり。粘性わずか。As-Cごく微量。As-TPごく微量。

15P 土壌説明 (A-A')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。As-C多量。As-TP少量。

16P 土壌説明 (A-A')

1. 黄 色 7.5YR 4/4 しまり強い。As-C多量。As-TP少量。
2. 黄 棕 色 7.5YR 3/3 しまりあり。As-C微量。
3. 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまりあり。As-C微量。
4. 黄 色 7.5YR 4/3 しまりややあり。As-TPごく微量。

21-22P 土壌説明 (B-B')

1. 黄 色 7.5YR 4/4 しまり強い。As-C多量。根固め。
2. 黑 棕 色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C微量。
- (3). 黑 棕 色 7.5YR 4/2 しまりややあり。As-C微量。柱底。

(1). 黄 棕 色 7.5YR 4/2 しまりあり。As-C少量。
(2). 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまりやや強い。As-Cやや多量。

24P 土壌説明 (C-C')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまり弱い。均質。
2. 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまり弱い。均質。細粒。

27-28P 土壌説明 (D-D')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C多量。黄褐色地山粒微量。小繊維。
2. 黑 棕 色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-C少量。地山粒微量。
3. 黑 棕 色 7.5YR 2/2 しまりややあり。As-Cごく微量。柱底。

4. 黒 色 7.5YR 2/1 しまり強い。As-C多量。

5. 喀 棕 色 7.5YR 3/2 しまり弱い。As-Cごく微量。

6. 喀 棕 色 7.5YR 3/3 しまりやや強い。As-C微量。

7. 喀 棕 色 7.5YR 3/2 しまりあり。As-C微量。

8. 喀 棕 色 7.5YR 4/4 しまり弱い。As-C多量。

9. 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまりやや弱い。As-C多量。

10. 黑 棕 色 7.5YR 3/4 しまり弱い。As-C多量。

29P 土壌説明 (E-E')

1. 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまり弱い。As-C少量。柱底。
2. 黑 棕 色 7.5YR 3/2 しまり弱い。As-C少量。柱底。
3. 暗 喀 棕 色 7.5YR 2/3 しまりややあり。As-C微量。柱底。
4. 喀 棕 色 7.5YR 4/3-3/4 しまり強い。As-C多量。根固め。
5. 黑 棕 色 7.5YR 2/2 しまりやや弱い。As-C微量。根固め。
6. 黑 棕 色 7.5YR 3/1 しまり強い。As-C微量。根固め。

30-33P 土壌説明 (F-F')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまりあり。As-Cやや多量。
2. 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまり弱い。As-C少量。
3. 黑 棕 色 7.5YR 4/4 灰褐(5.2)シルトブロック微量。
4. 喀 棕 色 7.5YR 3/3 しまり弱い。As-C少量。
5. 黑 棕 色 7.5YR 2/2 しまりあり。As-Cごく微量。
6. 黑 棕 色 7.5YR 3/1 しまりやや弱い。均質。

42-43P 土壌説明 (G-G')

1. 黄 色 7.5YR 4/3 しまり強い。As-C多量。黃褐色地粒微量。
2. 喀 棕 色 7.5YR 3/4 しまりやや弱い。As-C少量。
3. 黑 棕 色 7.5YR 4/4 黃褐色地山粒微量。柱底。
4. 喀 棕 色 7.5YR 3/3 しまりややあり。均質。
5. 黑 棕 色 7.5YR 3/2 しまりややあり。均質。
6. 黑 棕 色 7.5YR 3/1 しまりやや弱い。均質。

第17図 遺構図(11) ピット

42P 土層説明 (G-G')

7. 黒 色 7.5YR 2/2 しまり弱い。A₂-C多量。ローム粒微量。
 8. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりあり。粘性わずか。A₂-Cごく微量。
 9. 褐 色 7.5YR 4/4 しまりあり。粘性わずか。

44P 土層説明 (H-H')

1. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。A₂-C多量。
 地山ブロックやごく少量。
 2. 暗 褐 色 7.5YR 4/3 しまりあり。A₂-C少量。
 地山ブロックやごく少量。

46P 土層説明 (H-H')

- ①. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。A₂-C少量。地山粒少量。
 ②. 暗 褐 色 7.5YR 3/4 しまりあり。A₂-C少量。地山粒少底。

50P 土層説明 (I-I')

1. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりあり。A₂-C非常に多量。
 地山粒。A₂-B少底。
 2. 褐 色 7.5YR 4/6 しまり非常に強い。A₂-Cやごく少量。
 地山粒。A₂-B多量。
 3. 黒 色 7.5YR 3/2 しまり強い。A₂-Cやごく微量。
 地色土A₂-B少底。
 4. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまり強い。A₂-C多量。地山粒、
 A₂-B少底。A₂-CはA₂-B少底。
 5. 褐 色 7.5YR 4/4-4/6 しまり強い。A₂-C微量。
 地山粒。A₂-B多量。斑状。
 6. 黑 褐 色 7.5YR 2/2 しまり強い。A₂-C多量。
 地山粒。A₂-B微量。
 7. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまり強い。A₂-C多量。
 地山粒。A₂-B少底。
 8. 褐 色 7.5YR 4/4 しまり強い。A₂-C少量。
 地山粒。A₂-B多量。
 9. 黑 褐 色 7.5YR 2/2 しまりあり。A₂-C微量。
 10. 褐 色 7.5YR 4/4 しまりやや弱い。シルト質。
 11. 黑 褐 色 7.5YR 2/1 硬化。A₂-C微量。地山粒少量。
 12. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりやや弱い。A₂-C少量。
 地色土A₂-B多量。
 13. 黑 褐 色 7.5YR 3/2 しまりあり。A₂-C少量。地山粒。A₂-B少底。

14. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまりやや強い。A₂-C微量。

15. 暗 褐 色 7.5YR 3/4 しまり弱い。A₂-C微量。地山粒。
 A₂-B少底。

53P 土層説明 (H-H')

1. 暗 褐 色 7.5YR 3/4 しまりややあり。地山粒微量。A₂-C少量。
 地柱。
 2. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまりやや弱い。A₂-C微量。
 3. 褐 色 7.5YR 4/3 しまり強い。A₂-C多量。地山粒多量。
 4. 極暗 褐 色 7.5YR 2/9 しまりやや弱い。
 5. 黑 褐 色 7.5YR 3/2 しまりやや弱い。
 6. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまりあり。
 7. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりあり。A₂-C微量。

54P 土層説明 (J-J')

1. 暗 褐 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。A₂-C多量。地山粒少底。
 2. 暗 褐 色 7.5YR 2/2 しまりあり。A₂-Cごく微量。

55P 土層説明 (K-K')

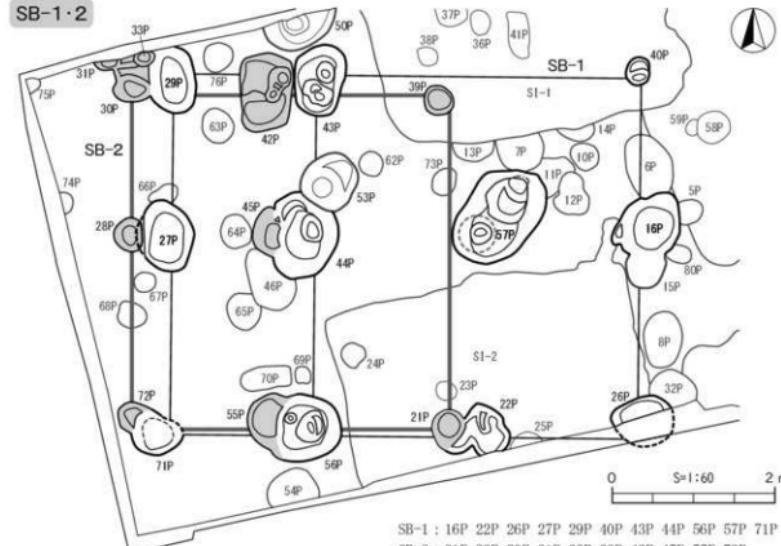
1. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりあり。A₂-C多量。地山粒少底。
 2. 暗 褐 色 7.5YR 3/4 しまりあり。A₂-Cやごく微量。
 3. 黑 褐 色 7.5YR 3/1 しまり非常に強い。A₂-Cごく微量。

56P 土層説明 (K'-K')

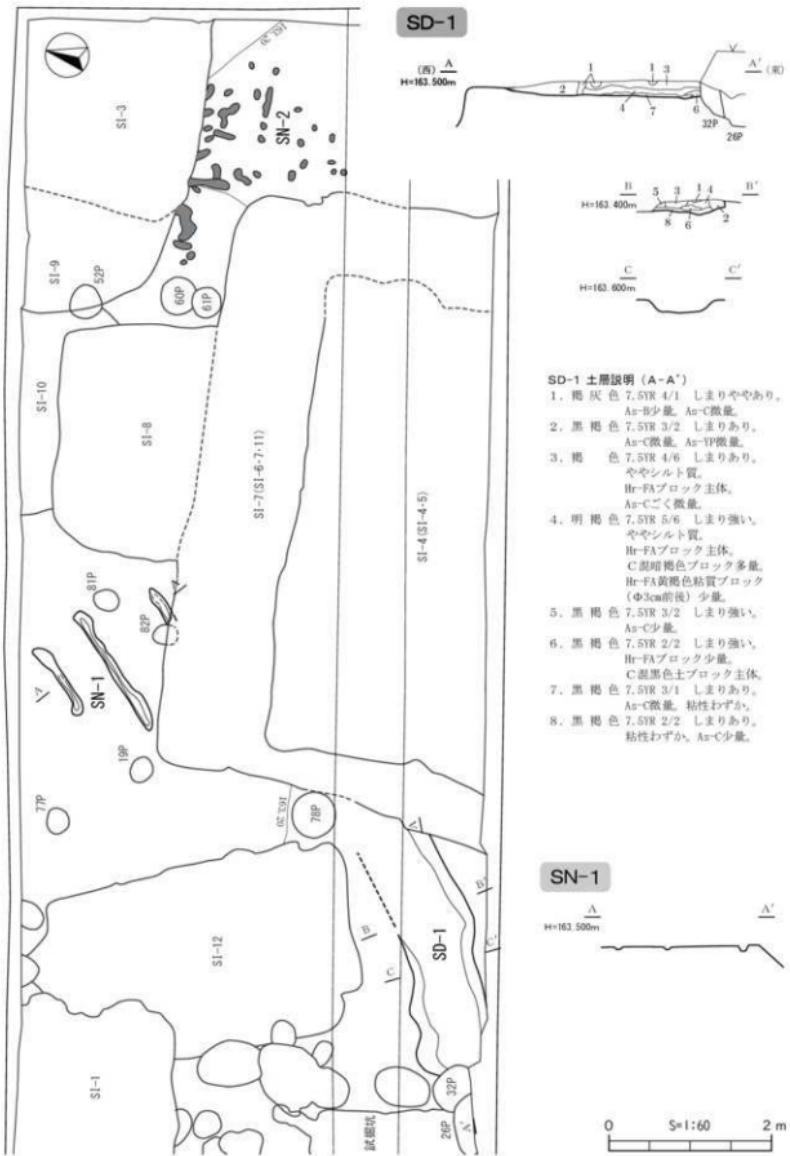
- ①. 褐 色 7.5YR 4/3 しまり強い。A₂-C多量。ローム粒多量。
 ②. 暗 褐 色 7.5YR 3/4 しまりやや弱い。A₂-C少底。
 ローム粒少底。
 ③. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまりやや弱い。A₂-C微量。
 地山粒ごく微量。
 ④. 黑 褐 色 7.5YR 3/2 しまりあり。A₂-C微量。
 ⑤. 黑 褐 色 7.5YR 2/2 しまりあり。粘性ややあり。

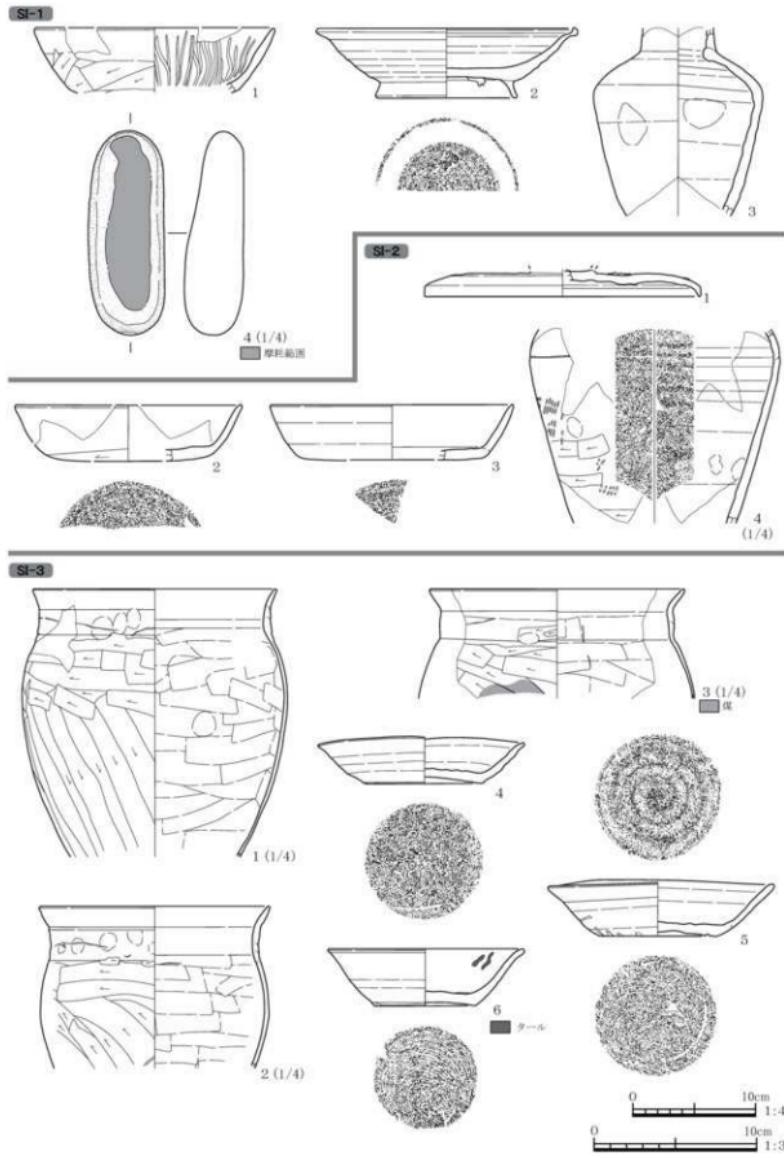
57P 土層説明 (L-L')

1. 褐 色 7.5YR 4/3 しまりやや強い。A₂-C多量。A₂-TP少底。
 小礫微量。
 2. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまりあり。A₂-Cやごく微量。A₂-TP少底。
 3. 褐 色 7.5YR 4/4 しまりややあり。A₂-C少底。
 地山粒ブロックやごく微量。均質。
 4. 暗 褐 色 7.5YR 3/3 しまりあり。A₂-Cごく微量。



第18図 遺構図(12)ビット / SB-1・2





第20図 遺物図 (1) SI-1 / SI-2 / SI-3

第6表 SI-1 出土遺物観察表 (単位: cm, g)

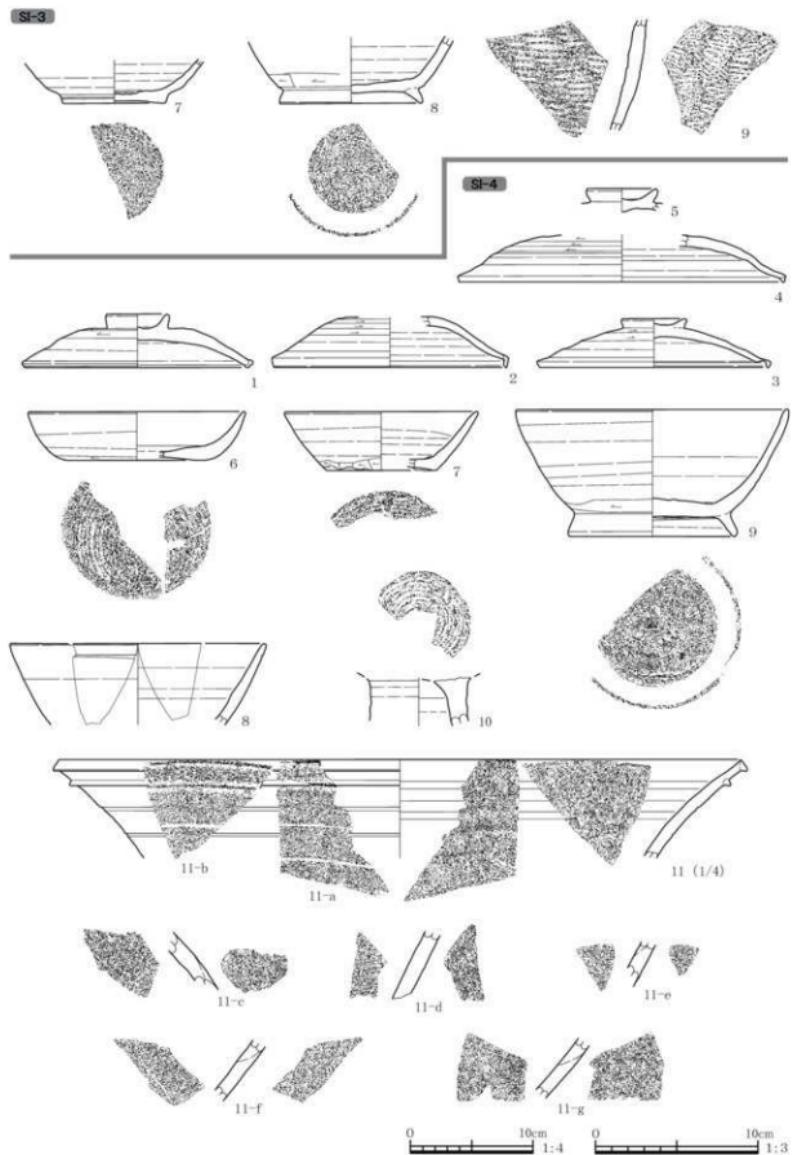
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③軸土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-1 1	土師器 环	口径 (14.8) 底径 (4.0)	①酸化焰 ②褐色/明褐色 ③石英、白色粒、褐色粒 ④口縁部 器高 (4.0)	外面: 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面: ナダ後、放熱のヘラミガキ (暗文) [SI-2-1括]	上層 一括	
SI-1 2	須恵器 环	口径 (13.4) 底径 — 器高 (3.45)	①還元焰 ②灰黄色/灰黄色 ③石英、赤色粒 ④1/2	外面: 軸轆成形。底部回転糸切り後、 高台貼付。 内面: 軸轆成形。	床直 (No. 1) [12 P-1括]	
SI-1 3	須恵器 蓋	口径 (11.6) 底径 — 器高 (11.6)	①還元焰 ②暗灰黄色/暗灰黄色 ③石英、赤色粒 ④1/2	外面: 軸轆成形。指頭痕。 内面: 軸轆成形。指頭痕。	カマド掘り方 (No. 4)	
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③軸土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-1 4	石製品 砥石	自然礫を素材とし、表・裏面に摩耗痕・擦痕。 長さ: 16.7 cm 最大幅: 6.3 cm 厚さ: 4.9 cm 重さ: 854.75g			床直 (No. 3)	

第7表 SI-2 出土遺物観察表 (単位: cm, g)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③軸土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-2 1	須恵器 蓋	口径 (16.0) 底径 (1.1)	①還元焰 ②灰色/青黒色 ③石英、白色粒 ④天井部	外面: 軸轆成形。天井上部回転ヘラケズリ。 内面: 軸轆成形。	土坑1 底面 (No. 2)	扁平な天井部で端部は短く屈曲。
SI-2 2	須恵器 环	口径 (13.4) 底径 — 器高 (3.45)	①還元焰 ②暗灰黄色/暗灰黄色 ③石英、白色粒 ④1/3	外面: 軸轆成形。底部回転ヘラケズリ。 内面: 軸轆成形。	覆土上面 一括	
SI-2 3	須恵器 环	口径 (15.0) 底径 (11.0) 器高 (3.4)	①還元焰 ②灰色/灰色 ③白色粒、黒粒や多量 ④口縁部~体部	外面: 軸轆成形。 内面: 軸轆成形。	中層 一括	
SI-2 4	須恵器 蓋	口径 (15.9)	①還元焰 ②灰黄色/にぶい黄灰色 ③石英、黑色粒、極小白色粒 ④体部	外面: 軸轆成形。回転ヘラケズリ、タタキ、 ナデ。 内面: 軸轆成形。	覆土上面 (No. 1) 一括	湖西・須投 か東海座

第8表 SI-3 出土遺物観察表 (単位: cm, g)

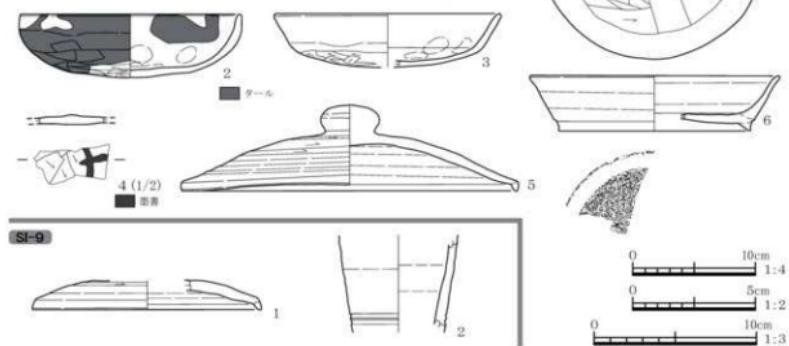
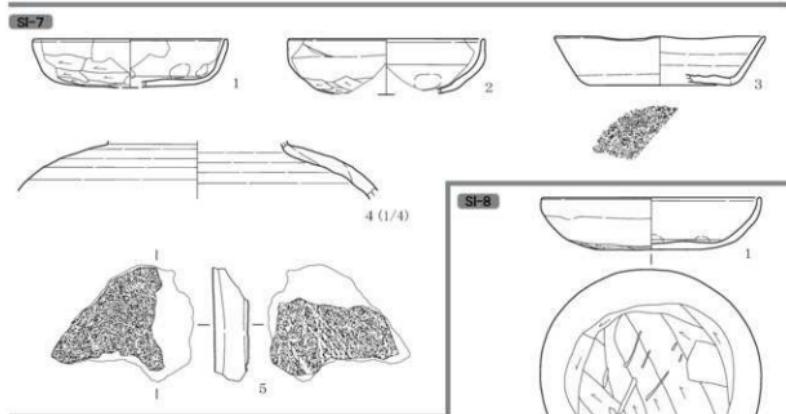
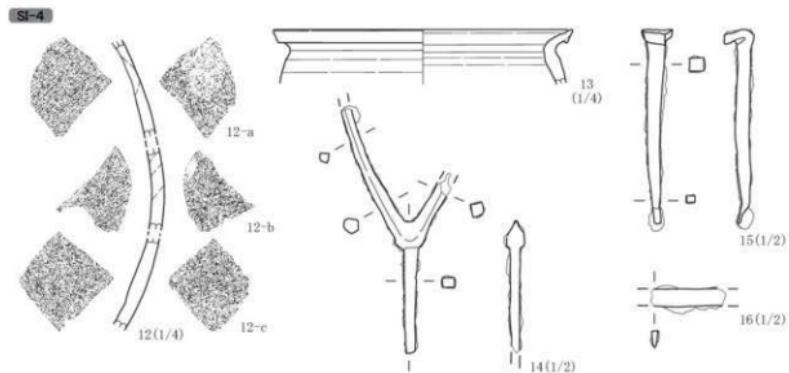
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③軸土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-3 1	土師器 甕	口径 20.0 底径 22.0 器高 (22.0)	①酸化焰 ②明赤褐色/明赤褐色 ③石英、白色粒、角閃石 ④3/5	外面: 口縁部~頸部ナデ、頭部指頭痕。 胴上半部ヨコのヘラケズリ、胴下 半部タテ・ナメのヘラケズリ。 内面: 口縁部~頸部ナデ。胴部ヘラナデ。 指頭痕。	下層 (No. 2 ~ 4.9)	
SI-3 2	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 — 器高 (13.3)	①酸化焰 ②明赤褐色/明赤褐色 ③長石、石英、角閃石微量 ④口縁部~胴部	外面: 口縁部~頸部ナデ、頭部指頭痕。 胴上半部ヨコのヘラケズリ、胴下 半部斜めヘラケズリ。 内面: 口縁部~頸部ヨコナデ、胴部ヨコ のヘラナデ。	下層 (No. 12)	
SI-3 3	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 (9.9)	①酸化焰 ②橙色/明赤褐色 ③白色粒、角閃石、輝石 ④口縁部~胴部	外面: 口縁部ナデ、頭部ナデ、ヨコのヘ ラケズリ、指頭痕。胴上部ヨコの ヘラケズリ。 内面: 口縁部ナデ。頭部~胴部ヨコの ヘラナデ。	下層 (No. 7) 外に煤付 着	
SI-3 4	須恵器 环	口径 12.7 底径 7.2 器高 2.9	①還元焰 ②灰色/灰色 ③白色粒、褐色粒 ④ほぼ完形	外面: 軸轆成形。底部回転糸切り。 内面: 軸轆成形。	下層 (No. 8-9)	
SI-3 5	須恵器 环	口径 13.8 底径 7.2 器高 3.5	①還元焰 ②灰白色/灰色 ③石英、輝石、暗褐色粒 ④完形	外面: 軸轆成形。底部回転糸切り。 内面: 軸轆成形。見込みに爪状痕。	床直 (No. 11)	
SI-3 6	須恵器 环	口径 12.1 底径 6.2 器高 3.5	①還元焰 ②黄灰色/黄灰色 ③石英、長石 ④4/5	外面: 軸轆成形。底部回転糸切り。 内面: 軸轆成形。	掘り方 (No. 16) 内面にター ル付着	
SI-3 7	須恵器 环	口径 — 底径 6.4 器高 (2.7)	①還元焰 ②にぶい黄褐色/灰白色 ③白色粒、暗褐色粒、黑色粒 ④1/3	外面: 軸轆成形。底部回転糸切り。 内面: 軸轆成形。	P 2 掘り方	
SI-3 8	須恵器 高台付甕	口径 (8.8) 底径 4.1 器高 (4.1)	①還元焰 ②暗灰黄色/灰白色 ③白色粒、黒色粒、赤褐色粒 ④1/4	外面: 軸轆成形。底部回転糸切り後、 高台貼付。 内面: 軸轆成形。	上層 (No. 1) 外に底部に 線刻	
SI-3 9	須恵器 甕	口径 — 底径 (6.8) 器高 (6.8)	①還元焰 ②暗灰黄色/黄褐色 ③明褐色粒、白色粒、黑色粒 ④体部	外面: 平行タタキ。 内面: 平行當て具。	南上層	



第21図 遺物図(2) SI-3 / SI-4

第9表 SI-4 出土遺物観察表 (単位: cm, g)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③船上 ④残存	成・整形技術の特徴	出土層位	備考	
SI-4 1	須恵器 蓋	口径 (13.6) 縦高 (4.0) 横幅 (3.3)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③白色粒、石英やや多い、赤色粒やや多量 ④2/3	外面: 輪縫成形。天井上部回転ヘラケズリ。 内面: 輪縫成形。	No.1 下層	環状摘み。 天井端部はわずかに屈曲。	
SI-4 2	須恵器 蓋	口径 14.4 縦幅 3.0 横幅 (3.1)	①澤元焼 ②灰黄色/灰黄色 ③微小な白色粒、黒色粒微量 ④1/2	外面: 輪縫成形。天井上部回転ヘラケズリ。 内面: 輪縫成形。	SI-4 中層 (No. 5) SI-5~7 南東下層, SI-7~括	天井部は丸みをもち、縦縫は短く屈曲。	
SI-4 3	須恵器 蓋	口径 14.2 縦幅 4.0 横幅 (3.0)	①澤元焼 ②(いぶ)黄褐色/いぶい黄褐色 ③白色粒、黒色粒 ④2/3	外面: 輪縫成形。天井上部回転ヘラケズリ。 内面: 輪縫成形。	SI-5 床直 (No. 5~7)	環状摘み。 天井端部は強く屈曲。	
SI-4 4	須恵器 蓋	口径 (20.0) 縦幅 3.0 横幅 (2.9)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③白色粒、黒色粒 ④1/4	外面: 輪縫成形。天井部回転ヘラケズリ。 内面: 輪縫成形。	SI-4 上層 (No. 6)	天井端部はわずかに屈曲。	
SI-4 5	須恵器 蓋	口径 — 縦幅 4.4 横幅 (1.3)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③白色粒、黒色粒 ④横み	外面: 輪縫成形。 内面: 輪縫成形。	SI-4 上層 (No. 2)	環状摘み	
SI-4 6	須恵器 环	口径 (13.4) 底径 8.6 器高 3.0	①澤元焼 ②灰黄色/灰黄色 ③白色粒 ④2/3	外面: 輪縫成形。底部回転糸切り後。 内面: 輪縫成形。	SI-4 床直 (No. 6) SI-5 南西上層 SI-7~括		
SI-4 7	須恵器 环	口径 (12.0) 底径 (6.8) 器高 3.6	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③石英、白色粒 ④2/5	外面: 輪縫成形。体部下位ヘラケズリ後。 底部回転糸切り。	SI-5 上層 (No. 8)		
SI-4 8	須恵器 环	口径 (15.8) 底径 — 器高 <5.0>	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③白色粒 ④体部	外面: 輪縫成形。口縁部に回線1条。 内面: 輪縫成形。	SI-5 南西下層		
SI-4 9	須恵器 高台付	口径 (16.8) 底径 10.4 器高 7.8	①澤元焼 ②灰黄色/灰色 ③白色粒、黒色粒 ④2/5	外面: 輪縫成形。体部下位～底部に回転ヘラケズリ後、高台貼付。	SI-5 下層 (No. 8)		
SI-4 10	須恵器 高环	口径 — 底径 — 器高 (3.0)	①澤元焼 ②灰褐色/灰色 ③石英、白色粒 ④脚部	外面: 輪縫成形。 内面: 輪縫成形。	SI-5 南西下層		
SI-4 11a	須恵器 蓋	口径 — 器高 <7.7>	①澤元焼 ②褐色/灰褐色 ③石英、白色粒 ④口縁部	外面: 輪縫み後、輪縫成形。突縫と凹縫で区画、輪縫成形状。	SI-5 下層 (No. 7), SI-5 北東上層、上層、南西下層, (SI-8 南東)		
SI-4 11b		口径 — 器高 (8.7)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③石英、白色粒 ④口縁部	外面: 輪縫み後、輪縫成形。突縫と凹縫で区画、輪縫成形状。	SI-4 上層 (No. 4)		
SI-4 11c		口径 — 器高 (4.7)	①澤元焼 ②灰黄色/灰色 ③石英、白色粒 ④体部上半	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。表土			
SI-4 11d		口径 — 器高 (5.6)	①澤元焼 ②灰黄色/灰色 ③石英、白色粒 ④体部下半	内面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。		同一個体	
SI-4 11e		口径 — 器高 (3.7)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③石英、白色粒 ④体部下半	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。 内面: 輪縫み後、輪縫成形。	[SI-3~括]		
SI-4 11f		口径 — 器高 (5.0)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③石英、白色粒 ④体部下半	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。 内面: 輪縫み後、輪縫成形。	SI-5 下層 (No. 7) SI-5 南東上層 (SI-9~括)		
SI-4 11g	須恵器 蓋	口径 — 器高 (3.0)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③石英、白色粒 ④体部下半	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。	SI-4		
SI-4 12a	須恵器 蓋	口径 — 器高 (7.6)	①澤元焼 ②灰褐色/灰色 ③白色粒、黒色粒 ④体部	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。 内面: 輪縫み後、輪縫成形。放射状當て具。	SI-5 上層 (No. 3)		
SI-4 12b	須恵器 蓋	口径 (6.4)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③白色粒、黒色粒 ④体部	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。	SI-5~7 北東上層 (No. 3)	同一個体	
SI-4 12c	須恵器 蓋	口径 (7.2)	①澤元焼 ②灰色/灰色 ③白色粒、黒色粒 ④体部	外面: 輪縫み後、輪縫成形。平行タタキ。 内面: 輪縫み後、輪縫成形。放射状當て具。	SI-4~6~7 北西下層 (No. 3)		
SI-4 13	須恵器 蓋	口径 (24.6) 底径 — 器高 (4.5)	①澤元焼 ②灰白色/陶褐色 ③石英、白色粒、黒色粒 ④口縁部	外面: 輪縫成形。 内面: 輪縫成形。	SI-4~5~括		
番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技術の特徴				出土層位	備考
SI-4 14	鉄製品 ナス	形状: 二股 全長: <10.0> 基部長: <4.2> 基部最大径: 0.6 × 0.45 身部最大径: 0.8 × 0.6 身部幅: 0.6~0.7 重量: <16.49>				SI-5 中層 (No. 1)	
SI-4 15	鉄製品 釘	大釘 長さ: <8.2> 最大幅: 0.7 × 0.6 重量: <12.61>				SI-4 下層 (No. 7)	
SI-4 16	鉄製品 刀子	長さ: (3.1) 幅: 0.7 厚さ: 0.2 重量: <2.47>				SI-4 床直 (No. 8)	



第22図 遺物図(3) SI-4 / SI-7 / SI-8 / SI-9

第10表 SI-7 出土遺物観察表（単位：cm、g）

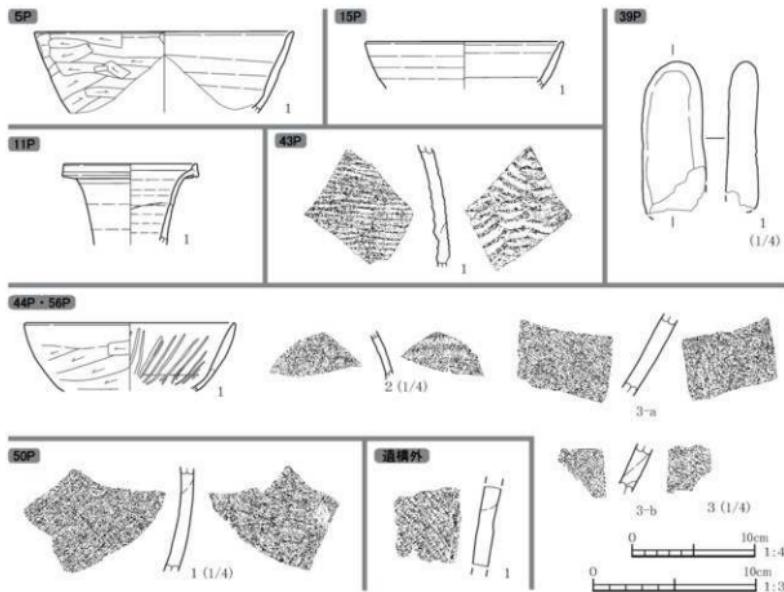
番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③断土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-7 1	土師器 环	口径(12.0) 底径 — 器高(3.0)	①酸化焰 ②橙色/明褐色 ③石英、輝石、白色粒 ④1/6	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。 内面：ヨコナデ、指頭痕。	一括	
SI-7 2	土師器 环	口径(12.2) 底径 — 器高(3.4)	①酸化焰 ②明赤褐色 / にぶい赤褐色 ③納雲母、白色粒 ④口縁部	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。 内面：ヨコナデ、指頭痕。	一括	型作り
SI-7 3	須恵器 环	口径(13.0) 底径(8.8) 器高 3.0	①還元焰 ②灰白色/灰色 ③石英、白色粒 ④1/3	外面：輪轂成形、底部回転へラケズリ。 内面：輪轂成形。	SI-5・7 北東上層	
SI-7 4	須恵器 甕	口径 — 底径 — 器高(4.8)	①還元焰 ②灰褐色/灰色 ③石英、白色粒 ④肩部	外面：輪轂成形。 内面：輪轂成形。	振り方	
SI-7 5	瓦 平瓦	長さ(7.0) 幅 — 厚さ 1.9	①還元焰 ②灰褐色/灰色 ③白色粒多量、石英、黒色鉱物微量 ④破片	背面：ナデ。 正面：継目・斜位の繩タキ。	SI-7 P1 一括 (III 48P)	

第11表 SI-8 出土遺物観察表（単位：cm、g）

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③断土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-8 1	土師器 环	口径 13.6 底径 3.2 器高 3.2	①酸化焰 ②橙色/橙色 ③石英、輝石、白色粒、納雲母 ④2/3	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、指頭痕。	No.3 下層	
SI-8 2	土師器 环	口径 13.6 底径 3.9 器高 3.9	①酸化焰 ②明赤褐色/明赤褐色 ③白色粒、石英、輝石、角閃石 ④2/5	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ、指頭痕。 底部へラナダ、指頭痕。	No.1 上層 北東	外面口縁部 ～体部・内 面口縁部に タール付着
SI-8 3	土師器 环	口径(14.0) 底径 — 器高(3.3)	①酸化焰 ②橙色/にぶい赤褐色 ③白色粒、納雲母 ④1/3	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部へラケズリ。 内面：ナデ、指頭痕。	一括	
SI-8 4	土師器 环	口径 — 底径 — 器高(0.4)	①酸化焰 ②明赤褐色/にぶい赤褐色 ③石英、白色粒 ④破片	外面：ヘラケズリ。 内面：ナデ。	南東	外面に墨書き
SI-8 5	須恵器 蓋	口径 20.6 横み径 3.3 器高 5.3	①還元焰 ②こぶし、黄褐色/にぶい黄褐色 ③白色粒、白色粒、石英、角閃石、輝石、 赤色粒 ④4/5	外面：輪轂成形、天井上部回転へラケズリ。 内面：輪轂成形。	No.4 ~ NO.6 下層	陶室埋構 み。天井端 部は短く屈曲
SI-8 6	須恵器 高台付环	口径(15.0) 底径(11.8) 器高 3.4	①還元焰 ②灰褐色/灰色 ③石英、白色粒、黒色多孔質鉱物 ④1/5	外面：輪轂成形、底部回転へラケズリ後に、 高台貼付。 内面：輪轂成形。	No.2 中層	

第12表 SI-9 出土遺物観察表（単位：cm、g）

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③断土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
SI-9 1	須恵器 蓋	口径(14.2) 横み径 — 器高(1.8)	①還元焰 ②灰色/灰色 ③石英、白色粒、黒色鉱物 ④1/9	外面：輪轂成形、天井上部回転へラケズリ。 内面：輪轂成形。	一括	天井端部短 く屈曲
SI-9 2	須恵器 蓋	口径 — 底径 — 器高(6.0)	①還元焰 ②灰褐色/灰色 ③白色粒、石英、黒色鉱物 ④頸部	外面：輪轂成形、2条の回線。 内面：輪轂成形。	一括	



第23図 遺物図(4) ピット / 遺構外出土遺物

第13表 ピット出土遺物観察表 (単位: cm, g)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③軸土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
5P 1	須恵器 环	口径(16.0) 器高(5.0)	①焼元培 ②灰オリーブ色/灰色 ③白色粒、黑色鉱物 ④1/4	外面: 輪縛成形、体部ヨコヘラケズリ。 内面: 輪縛成形。	上面	
11P 1	須恵器 环	口径(9.0) 器高(4.7)	①焼元培 ②灰褐色/灰色 ③白色粒、黑色鉱物 ④口縁部	外面: 輪縛成形、 内面: 輪縛成形。	上面	
15P 1	須恵器 环	口径(12.0) 器高(2.9)	①焼元培 ②灰褐色/黄灰褐色 ③白色粒、石英、黑色鉱物 ④口縁部	外面: 輪縛成形、 内面: 輪縛成形。	一括	
39P 1	石製品 こもあか石	長さ: <12.5cm 最大幅: 5.3cm 厚さ: 2.7cm 重さ: <261.72g	自然縫を素材とする。結晶片岩製。		一括 (旧SI-1 P2)	
43P 1	須恵器 壺	口径(9.0) 器高(6.0)	①焼元培 ②にぶい青褐色/にぶい緑褐色 ③白色粒、石英 ④体部	内面: 平行タタキ。	一括	
44-50P 1	土師器 壺	口径(13.0) 器高(4.2)	①焼元培 ②緑色/明赤褐色 ③細かい白色粒 ④口縁部	外道: 口縁部ヨコナヂ、体部ヘラケズリ。 内面: ナヂ後、放射状のハミガキ(略文)。	P44 中層	
44-50P 2	須恵器 壺	口径(3.6) 器高(3.6)	①焼元培 ②灰褐色/灰褐色 ③白色粒、石英、黑色鉱物 ④体部	外道: 輪縛成形。回輪ヘラケズリ。 内面: 同心円当て具。	P44 - 括 P56 - 括	SI-2 No. 4 と同一個体
44-50P 3a	須恵器 壺	口径(6.8) 器高(3.9)	①焼元培 ②暗灰褐色/灰褐色 ③白色粒、石英、黑色鉱物 ④肩部	外道: 輪縛み後に輪縛成形、平行タタキ。	P56 - 括	SI-4 No. 11 と同一個体
44-50P 3b	須恵器 壺	口径(3.6) 器高(3.6)	①焼元培 ②暗灰褐色/灰褐色 ③白色粒、石英、黑色鉱物 ④頸部	外道: 輪縛み後に輪縛成形、平行タタキ。 内面: 同心円当て具。	P44 - 括	
50P 1	須恵器 壺	口径(8.6) 器高(8.6)	①焼元培 ②灰色/灰色 ③白色粒、黑色鉱物多量 ④体部	外面: 輪縛み成形、平行タタキ。 内面: 輪縛み成形、放射状当て具。	- 括	SI-4 No. 12 と同一個体

第14表 遺構外出土遺物観察表 (単位: cm, g)

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調(内/外) ③軸土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	織文土器 深鉢	器高(5.0)	①焼化焰 ②にぶい黒褐色/にぶい橙褐色 ③白色粒 ④胴部	単施LR 織文粒位施文後、縁部單沈線。	P47 上層	

VI まとめ

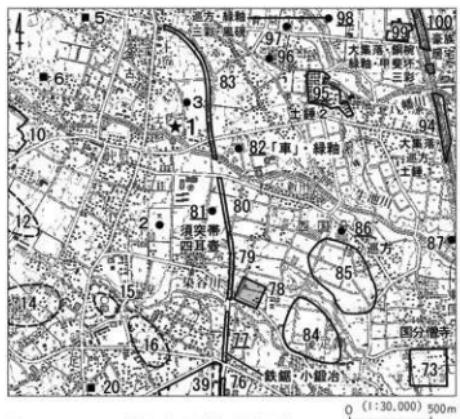
金古町裏遺跡3では、古代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡などが確認され、それらは重複事例が多い。古墳時代以降(Hr-FAの降灰前と降灰後)の畠状遺構も検出したが、その遺存状態からは、明確に「畠跡」と断定するのが躊躇される状況もある。ただし、周辺遺跡の状況からは、台地状は広域にわたって耕作地となっていたことが判明しており、当該地においても耕作地から集落へと土地利用が遷移したものと評価したい。SD-1も用水路とは考えづらく、耕作地に伴う区画のような施設と推定される。

畠とは対照的に、SI-4から出土した二股状鉄製品(ヤス)は注意される。先端部は欠損しているため形状不明であり、鑑(いわゆる逆刺)の有無も不明である。二股に分かれた身部分の断面形は、外側がやや丸みをもつものの正方形状を呈しており、雁股鑑のような内側の刃部はみられない。鉄製刺突漁具とした場合、牛池川を含めた周辺中小河川での漁撈活動を考慮する必要性が生じる。ただし、土鍤などがまとまって出土した遺跡は近隣になく、本資料1点では小規模な漁撈活動が推測される程度である。

遺物出土状況で興味深い事例として、本遺跡では、同一個体の須恵器壺・壺の破片が、時期の異なる複数の住居跡やピットから出土している。いずれも覆土中であり、これらの出土層位がただちに同一時期を示す保証もない。また、これらの現象全てが人為的理由とも判断できない。というのも、SI-7覆土中層では、極細砂のラミナ状堆積が観察されており、遺跡地には水流が流れ込んだことがあったらしい。牛池川が氾濫したものと推測され、その時期は8世紀後半から9世紀にかけての間と想定される。本遺跡の南東側にある牛池川右岸は現状でも低地となっており、大きく蛇行していたことを想定すると、本遺跡地は河川の攻撃面に該当する。このような洪水イベントが発生するベースとして、当時の豊富な水量と水産資源を想像することで、先の「ヤス」の出土が蓋然性を帯びてくる。

次に近隣遺跡との関係性についてみておこう。漁具は、八幡川右岸にわずかに分布するのみで、集落規模にも左右されないから、やはり河川漁撈は低調である。本遺跡の北東にあたる八幡川左岸と南東の染谷川左岸には、特殊遺物や鍛冶遺構を伴う官衙的要素の濃い遺跡群がある。前者は豪族住宅ともいわれる下

東西遺跡(100)をはじめ、下東西清水上遺跡(99)・中島遺跡(98)や清里南部遺跡で構成される。後者は国分寺・国分尼寺中間地域を中心とした元総社遺跡群西部地域である。牛池川流域は両遺跡群の中間に該当し、青梨子金古遺跡(82)では「車」の刻書須恵器壺(9世紀末頃)が、西国分六ツ割遺跡(86)では銅製巡方が出土しているものの、畠を主体とした生産地としての価値が優位な地域と推定される。これらの生産基盤を直接運営する集団が、牛池川両岸微高地上に比較的大きな集落を形成していたものと予想され、本遺跡はその一角に該当するのである。



第24図 周辺の関連遺跡(第3図参照)

写 真 図 版



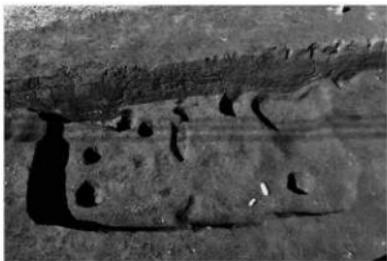
金古町裏遺跡3 遠景（北東から 右上方向に権名山）



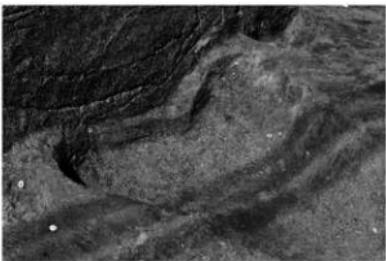
金古町裏遺跡3 遠景（北から 保渡田古墳群方面を望む）



調査区全景（上が北）



SI-1 全景 (南東から)



SI-1 カマド全景 (南から)



SI-1 カマド掘り方遺物出土状況 (南東から)



SI-2 全景 (南東から)



SI-2 カマド全景 (南西から)



SI-2 覆土中硬化層・北壁体痕跡 (北東から)



SI-3・9 全景 (北東から)



SI-3・9 全景 (南東から)



S1-3 南側遺物出土状況（南西から）



S1-3 北側遺物出土状況（南東から）



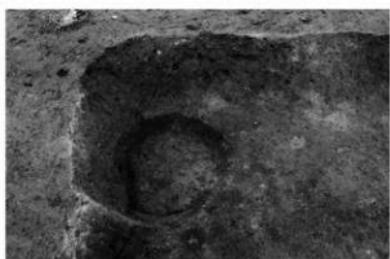
S1-4・7 全景（西から）



S1-4・7 全景（南東から）



S1-7 不明遺構検出状況（西から）



S1-7 土坑1 全景（南から）



S1-4 鉄製品出土状況近景（南から）



S1-4 西側遺物出土状況（北西から）



SI-4 南東側遺物出土状況（北から）



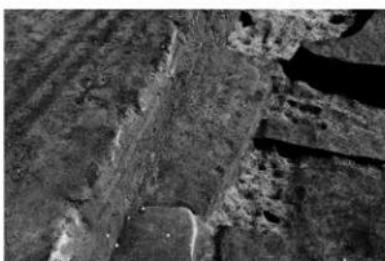
SI-8 全景（東から）



SI-8 カマド状遺構全景（東から）



SI-8 遺物出土状況（東から）



SI-10 全景（南西から）



SI-12 掘り方全景（南東から）



SB-1・2 を含む西側ピット群（北から）



SK-2・3 全景（南東から）



SK-4 全景 (南西から)



SK-5 焼土・灰検出状況 (東から)



SD-1 全景 (南西から)



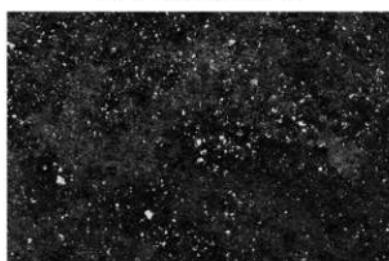
SD-1 土層断面 (南西から)



SN-1 検出状況 (北西から)



SN-2 検出状況 (北東から)



SN-2 周辺のV層上面 As-C 近景



基本層序C トレンチ (南西から)

P L . 6

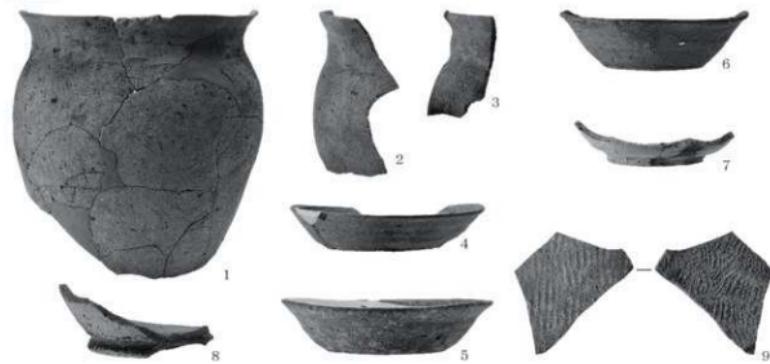
SI-1



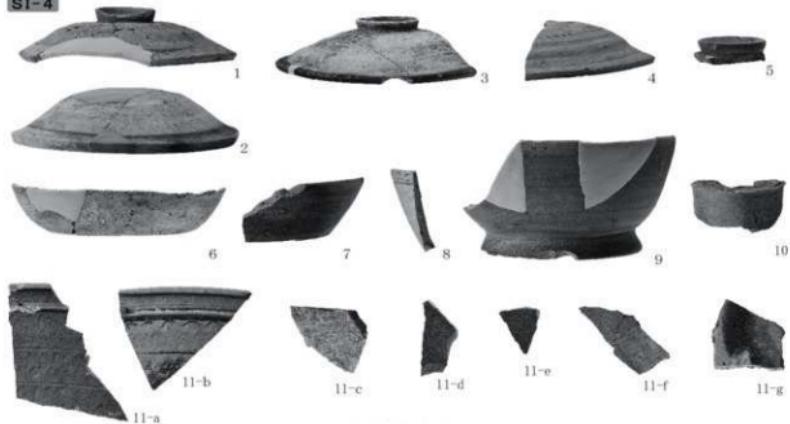
SI-2



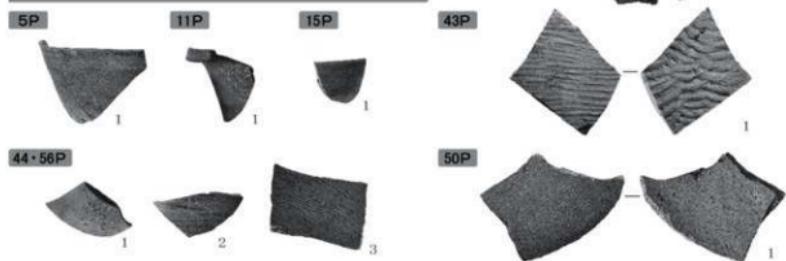
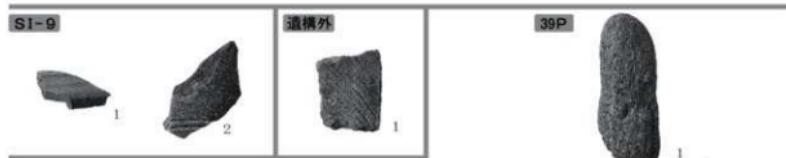
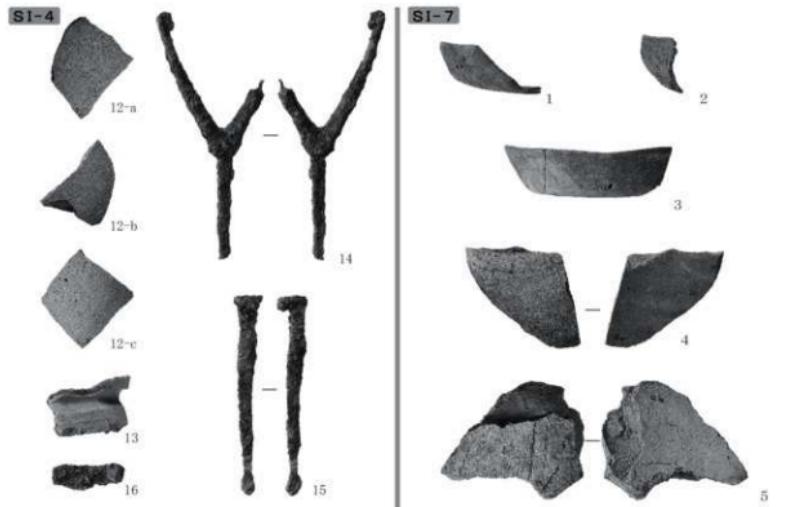
SI-3



SI-4



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)

抄 錄

フリガナ	カネコマチウライセキ 3
書名	金古町裏遺跡 3
副書名	-宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査-
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第452集
編著者名	矢島 浩 南田法正
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 TEL. 027-265-1804
発行機関	有限会社毛野考古学研究所
発行年月日	西暦 2020(令和2)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	（度分秒）			
金古町裏 遺跡 3	群馬県高崎市 金古町 211 番地 1	10202	775	36° 24' 28"	139° 00' 15"	20190818 ~ 20191001	122	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
金古町裏遺跡 3	集落跡 生産地	縄文 古墳 奈良 平安 中世 近世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 ビット 溝 畠状遺構	9軒 2棟 5基 76基 1条 2カ所	縄文土器 土師器 須恵器 石器 石製品 鉄製品 (釘・刀子等)	8~9世紀代の集落。 畠状遺構は畠耕の歴史痕跡と推測される。SI-4 覆土中から、鉄製刺突漁具と推定される「ヤス」 が出土した。

高崎市文化財調査報告書第452集

金古町裏遺跡 3

-宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査-

令和2年3月25日印刷

令和2年3月31日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／有限会社毛野考古学研究所

前橋市公田町1002番地1

TEL. 027-265-1804

印刷／朝日印刷工業株式会社